

みどりとともに

第35号



県民木づかい推進・森づくり大会2024(令和6年11月6日、輪島市三井町漆原)

石川県緑の少年団連盟

はじめに

令和6年1月1日、最大震度7の大地震が能登半島を中心に発生し、また、9月には、記録的な豪雨による新たな災害が奥能登を中心に発生しました。この、度重なる災害に遭われた方々には心からお見舞い申し上げます。

当少年団の子どもたち、保護者及び指導者の皆さま方におかれましては、長く大きな揺れにずいぶん怖い思いをされ、また、家屋の被害等で不自由な生活を余儀なくされながら今もなお、不安な気持ちと闘っている方もいらっしゃると思います。

発生から約1年が経ち、復旧、復興へまだまだ長い道のりではありますが、互いに助け合い共につながり合いながら、一人でも多くの方が一日も早く心穏やかな日々を迎えられますようお祈りいたします。

緑の少年団は、「自然を愛し、人を愛し、社会を愛する心豊かな人間に育っていくこと」を目的とした子どもたちの自主的な団体で、令和7年1月現在、県内で48団、約5,700人の団員が活動しています。

一方、平成2年4月に組織された『石川県緑の少年団連盟』は、各緑の少年団及び育成委員並びに行政機関との相互の連携のもとに、緑の少年団の健全な発展に資することを目的として支援業務等に取り組んでいます。

緑の少年団は自然との豊かな経験を通して、子どもの感性・知性・心を育み、また、自然と人がうまく付き合っている社会をつくることを考えていきたいと思っておりますが、このたびの災害で、子どもたちがどのようなかたちで自然に触れることができ、少しでも心穏やかに過ごせるのか、各関係機関の皆様からのご指導を得ながら、ともに考えていきたいと思っております。

これまで経験したことのない大きな被害を受けながら、緑の少年団の活動を支えてくださっている先生方並びに保護者の方々に心から感謝いたします。

本書は、団員たちの様々な活動や経験をとおして、森林や自然、環境について学んだこと感じたことなどを中心に、令和6年度における活動の記録をとりまとめたものです。

大変な状況の中、本書の作成にあたり、お世話になりました各学校及び育成委員をはじめとする関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

石川県緑の少年団連盟

目 次

1. 緑の少年団だより	
(1) 加賀ブロック	3
(2) 小松・能美ブロック	4
(3) 石川ブロック	24
(4) 金沢ブロック	29
(5) 河北ブロック	31
(6) 羽咋ブロック	38
(7) 輪島・穴水ブロック	44
(8) 珠洲ブロック	47
2. 令和7年用国土緑化運動・育樹運動ポスター原画・標語の審査結果	54
3. 令和6年度石川県緑の少年団連盟総会結果	63
4. 令和6年度緑の少年団緑の募金実績並びに7年度募金還付予定額及び育成助成予定額	76
5. 石川県学校林現況調査一覧表	78
6. 石川県緑の少年団連盟規約	79
7. 緑の少年団各種申請書等の様式	82
8. 石川県緑の少年団装備充実助成金交付規定	91
9. 石川県緑の少年団連盟組織	95
10. その他資料	100
(1) 緑の少年団ユニフォーム	101
(2) 全国緑の少年団連盟 団・団員数	102
(3) 石川県緑の少年団連盟加入申込の様式	103

1. 緑の少年団だより

(1) 加賀ブロック

「緑の少年団に入って学んだこと」

三谷小学校下緑の少年団
三谷小学校 5年

ぼくは、今年度から緑の少年団に入りました。緑の少年団の活動で特に心に残った活動が2つあります。

1つ目は、緑の募金活動です。保護者の方や地域の方に協力をしてもらいました。ぼくは、6年生とペアになり募金活動をしました。「募金をお願いします」と呼びかけると低学年の子や地域の方が募金をしてくれました。ぼくは「ありがとうございました」とお礼を言いました。募金してくれた人は嬉しそうでした。ぼくは、募金をしてくれて嬉しかったです。なぜ募金活動をするかということ、森林作りと森林を守り、育てる人づくりを行うためです。森林や緑は、ぼく達の身近な生活環境を守っています。21世紀を担う次の世代のためにも、森林のもつ力、その役割を知り、森林を守ることがとても大切です。ぼくたちが集めた募金がこのような活動に使われ、森林を守る活動に使われていると、とても嬉しいです。

2つ目は、木工教室です。木工教室では、木でパタパタのおもちゃを作りをしました。地域に住む田中さんが教えてくださいました。はじめに、田中さんに教えてもらいながらパタパタを作りました。5つの木の板をボンドやホッチキスを使い細い布で固定しました。最初は順調でした。しかしぼくは逆に作っていました。みんなも失敗してしまいました。木工教室では、完成する人がいませんでした。次の日に、長休みと昼休みを使ってパタパタを完成することができました。ぼくは、パタパタができてとても

嬉しかったです。実際に遊んでみると、とても嬉しかったです。パタパタを作れるようになったので友達に作ってあげました。その友達は嬉しそうでした。友達は、遊んでくれました。ぼくは、友達が遊んでくれて嬉しかったです。

これらの活動を通して、ぼくは樹木や緑の大切さに気付きました。これからも自然に関わって自然を大切にしたいと思いました。

「緑の少年団で学んだこと」

三谷小学校下緑の少年団
三谷小学校 5年

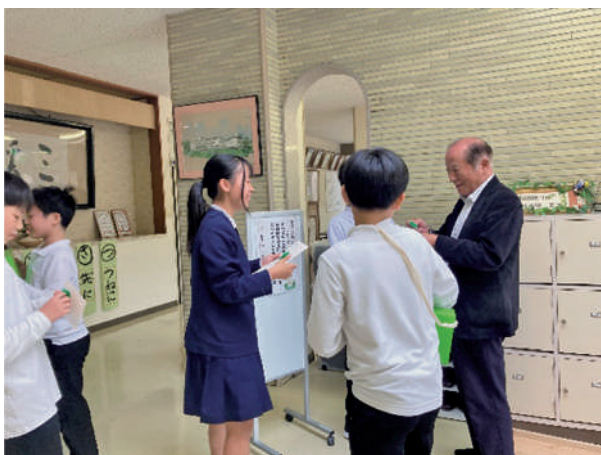
緑の少年団は、次代を担う子供たちが、森林での学習活動、地域の社会奉仕活動、キャンプなどのレクリエーション活動を通じて、自然を愛し、人を愛し、自ら社会を愛する心豊かな人間に育っていくことを目的とした、子供たちの自主的な団体です。ぼくは、この緑の少年団に今年から入りました。僕は、学校の玄関のプランターに花を植えたり、募金活動をしたり、木工教室で、木のおもちゃを作ったりしました。心に残ったことは、2つあります。

1つ目は、緑の募金活動です。森林を守り育て、国際協力にもつなげていくため、「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」に基づき、“森林を守る 森林を活かす”をスローガンに、毎年春と秋に募金活動を実施しています。僕の入った緑の少年団でも春と秋に募金活動をしました。僕達5年生と6年生で行いました。保護者や地域の人達や全校生徒からも協力してもらいました。たくさんの募金が集まりました。集まった募金を石川県に送りました。

2つ目は、木のおもちゃを作りました。地域に住む田中さんがパタパタを教えてくださいました。パタパタとは、5枚の木の板を布で固定してパタパタ動かすおもちゃです。みんながパタ

パタを作っているときに作り方が違うことがわかりました。それで、木工教室では、パタパタが完成することは、ありませんでした。次の日も挑戦しましたが、作れませんでした。友達がパタパタを作ってうらやましいと思いました。その後、友達がパタパタを作ってくれました。

緑の少年団の経験を通して、自然の大切さに気付いてよかったです。今後も、自然を大切にしていきたいです。



(2) 小松・能美ブロック

「みどりのぼ金活動」

那谷校下縁の少年団
那谷小学校 5年

11月17日に町の文化祭（もみじフェスタ）がありました。そこで、ぼくたちは、町の人にぼ金をよびかけました。町の人が協力してくれました。

11月20日に学校の近くにある那谷寺に行つて緑の少年団3人でぼ金活動をしました。初めは、那谷寺の入口でぼ金のよびかけをしました。次に入口から中に入ってすぐの場所でぼ金をよびかけました。

「ぼ金をおねがいします。」

と声をかけました。何回もよびかけるとぼ金をしてくれる人がふえてきました。ぼ金をしてもらった人には、みどりの羽根をわたしました。しばらくして、また、入口の方へもどりました。すると、大人数の観光客が来たので、今までより大きな声でぼ金をよびかけました。何人かぼ金をしてくれました。

ぼくたちがよびかけるとぼ金をしたいと思ってくれる人がたくさんいました。でも、現金を持っていない人もたくさんいて、ぼ金の金額はあまり多くなかったけれど、がんばって活動できたのでうれしかったです。



那谷寺にて緑の募金活動

「木の大切さを知った」

那谷校下緑の少年団
那谷小学校 5年

4月29日に、那谷小の緑の少年団3人で「みどりの祭典」に行きました。津幡の森林公園には、県内の緑の少年団の人がたくさんいました。ぼくは、こんなにたくさんの緑の少年団員がいるんだなと思いました。

初めに、緑の少年団の表ししょうがありました。会場にいたみどりの少年団の人たちが、自分の学校の場所にならびました。次々に表ししょうが行われました。みんないろんな活動をしているんだなと思いました。

表ししょうが終わったら、自由に遊ぶことができました。ぼくたちは、木が使われたつみつきゲームにチャレンジしました。3人で協力して木を積んでいきました。那谷小学校の緑の少年団が優勝しました。とてもうれしかったです。

ぼくは、来年6年生になるので、色々なことに取り組んで、またみどりの祭典に行きたいです。



みどりの祭典への参加

「協力したなたっ子花だん」

那谷校下緑の少年団
那谷小学校 6年

毎年、ぼくたちの学校では春と秋の2回全校で花植えを行っています。春には、マリーゴールドやペゴニア、秋にはキンセンカやチュールリップなどを植えました。花だんに植えるときは、背が高くなる花を後ろに小さい花がたくさん咲くものは手前になるように配置を考えて植えました。今年は新しい2つのことに取り組みました。1つ目は、花だんに名前をつけました。花だんの名前は「なたっ子花だん」です。2つ目は、全校水やり当番を決め、晴れている日には、当番の人が水やりをしました。当番は、上級生と下級生といっしょにしました。花が良く育つように6月と11月には、全校草むしりをしました。

今年は、小松市の「2024夏 花のコンクール大賞」の団体の部で銀賞になりました。一生けん命にお世話してよかったなと思います。全校花植えをして、水やりのときは、花がよく育ってほしいという思いでしました。来年も花を大切にして、きれいな花だんにしてほしいと思います。



水やり当番の水やり



全校花植え(秋)

「花植えの感覚」

芦城校下緑の少年団
芦城小学校 6年

私は、今年だけではなく、2年ほど前から緑の少年団で花植え体験をさせてもらっていました。少し歩く道が明るく感じられたらいいなと思いつつ花植えをしていましたが、最近ではそれだけではなく、花や花の土の中にあるミミズのことなども考えるようになりました。病気にならないといいなとか、冬になると寒くないかなとか、いろいろなことを考えます。だからこそ、花植えを丁寧にやりたいと思えたり、水やりの水を葉っぱにかけないように気をつけたりすることができました。

緑の少年団の体験は、もう全て終了しましたが、これからも緑から様々なことを感じていきたいなと思います。

「緑の少年団の思い出」

芦城校下緑の少年団
芦城小学校 6年

私は、3年生から6年生まで3年間、緑の少年団として活動しました。公園の花植えや募金活動など、いろいろな経験をとおして緑や花など自然の大切さや美しさを学ぶことができました。

緑の少年団の活動で思い出に残っていることは、アドベンチャーガーデン能美で行われたアスレチック体験です。とても寒い日だったけれど、スリル満点で楽しかったです。木と木の間をつな渡りしたり、つり橋を渡ったりするのが楽しかったです。それから他の小学校の友達とも交流することができました。緑の少年団の活動を通して、学んだことを大切に、これからも緑や花に関心をもったり、また友達や家族にも伝えていけたりしていけるようにしたいです。

「緑と共に」

芦城校下緑の少年団
芦城小学校 6年

私は、4年間やってきて、自然の大切さをすごく実感できました。なぜなら、自然がないと生きていけないということも分かったし、実際に花植えを体験することで自然を育てている人の気持ちなども知ることができました。団に入って、自然がどれほど大切か分かることもできたので、これからはずっと自然と生きていくために資源を大切にすることやまず植物を大切にすることなどを心がけて、この先も緑と共に生きていけるようにみんなで協力していきたいなと思います。

「緑の大切さを感じた4年間」

芦城校下緑の少年団
芦城小学校 6年

私は、3年生から緑の少年団に入団し、約4年間活動しました。4年間の活動を通して、特に緑の大切さを実感しました。緑がなくなると、地球環境の悪化にもつながるし、動物も植物も人間も生きていけないことがわかりました。お花を実際に植えることで、緑を守る第一歩につながりました。これからも、緑の少年団が受けつがれ、緑を守ってほしいです。緑の大切さを感じることができた思い出いっぱいの4年間に感謝しかないです。

「戦没者慰霊式をふり返って」

稚松校下緑の少年団
稚松小学校 6年

私が心に残った活動は、戦没者慰霊式のお手伝いです。

去年、初めてお手伝いをさせていただきました。お手伝いは、参列者の方々にお花を渡したり、階段から降りるのを手伝ったりしました。本番では花を渡した後にかかるくおじぎしたり、司会が話しているときはじっとしたりできてよかったです。今年はステージの上で席の方を長い間向いていたので、なるべく動かず立つことができました。またいつかこのような場に出会ったときは、お客さんの気持ちを汲みとって対応できるようにしたいです。

「九竜橋川沿線花苗植え」

稚松校下緑の少年団
稚松小学校 6年

自分は、みんなよりもすこしはやくつきました。なのですこしまちました。緑の少年団のみんながきました。教頭先生がもっていたはたを

6年生としてたてました。えらい人たちがつぎつぎとあいさつと話をしました。話にあった危険な場所は近づかないようにしました。植木ばちと花がまえにおいてあるところにすわり植えかたを話してもらいました。この植えた花はみんなに見られるため花と花の間やバランスを考えながらしんげんに花を植えました。緑の少年団をやってきて思ったのは自然の中にいると楽しくてきれいということです。でも環境汚染などで自然がなくなっていつているから日々の生活から節電など地球のことを思いながら生きていきたいです。

「花を植えて水やりをして思ったこと」

稚松校下緑の少年団
稚松小学校 5年

わたしは花植えをしてもっと花を大切にしようと思いました。その理由が3つあります。

1つ目はすてきな小松をつくれるからです。最初に花植えをする時にすてきな小松を花からつくりましょうと言われました。じっさいに植えるときれいなのはもちろん、みんなの花とならべるととてもすてきにみえました。色とりどりですてきだと思ったからです。

2つ目はきた人たちにすてきな小松をみせられるからです。花がみんな通る道におかれて車で来た人も見て小松はきれいだなと思ってもらえるから、もっと花を大切にしてお家の周りもすてきだと思ってもらいたいと思いました。

3つ目は花を自分で植える達成感をあじわえるからです。自分で花を植える事はないから植え終わったらきれい!!やってよかった!!という、達成感をあじわえます。このかんかくをおぼえて自分でやりとげる気持ちといやになってもあきらめないでやりとげるつよい気持ちをもったきがしました。あきらめないのがむずかしい勉強をできなかった時に思うすっきりしない気持ちにつながったかもしれないです。

わたしがしらなかった花を植えるだけの行動にふかい意味があるとわかりました。これから

は近所に植えてある花を見たり花の名前とかをおぼえたいです。これがわたしの花を大切にしたい理由です。



花苗植え 5月

「緑の少年団で一番心にのこったこと」

稚松校下緑の少年団
稚松小学校 5年

わたしが緑の少年団で一番心に残っていることは、全国花のまちづくり小松大会にわたしの質問がえらばれて、ちよくせつ村雨辰剛さんに質問したことです。

わたしは学校の先生からえらばれたことを聞いて「えっ、わたしのがえらばれたの?」とおどろきました。「まあ、大じょうぶだろう。」とも思いました。でも本番がだんだん近づいてくると、不安になってきました。

本番の日、名前がよばれてステージにあがると、村雨さんがえがおでまわってしてくれたのできんちょうがほぐれて不安な気持ちがなくなりました。

わたしが村雨さんに質問した内容は、日本の庭とスウェーデンの庭でにているところはありますか。とわたしの名前には木の実の実がつきます。お父さんには木、お母さんは花がついています。村雨さんはどうして村雨辰剛と言う名前にしたのですか。の二つです。

わたしが質問をすると村雨さんは、一つ一つの質問にしっかりと答えてくれました。とてもうれしかったです。

質問が終って自分のすわっていたところにもどろうとすると、村雨さんがプレゼントをくれました。何かなと思ったらサイン入りの本でした。家に帰って読んでみると、とても読みやすい本だったので、これからも大切にしていきたい

いと思いました。

来年も緑の少年団の活動に参加して、学びをもっとふかめていきたいです。

「県民みどりの祭典での思い」

稚松校下緑の少年団
稚松小学校 4年

県民みどりの祭典で思ったことは、友達といっしょに緑（自然）とともに緑は大切だと話や体けんをして改めて感じました。そして祭典は緑や自然があるからこそみんなが楽しめる祭典ができるのだなと思いました。そして、他の小学校との関わりもあって、楽しく交流ができました。学校でも勉強で習った自然にある素材で体けんできるので自分だけの物が作れるのでいい体けんをしました。その素材で自分たちがいつも使っている、生活で使う物も作ることができると知りました。食材も自然にある食材なのでいつもの給食・ごはんがちがう感じがしました。遊びやゲームは、色々いつもちがって工夫がたくさんしてあり、年れい関係なく遊べるのでみんなとわらいながらゲームのように楽しめました。

これからも緑が大切ということをおすれずにともに歩いていきたいです。



みどりの祭典

「初めての緑の少年団」

稚松校下緑の少年団
稚松小学校 4年

わたしは、4年生で初めて、緑の少年団に入りました。一番最初の活動の県民みどりの祭典では、いろいろな小学校の緑の少年団が集まっ

ていて、こんなにいるんだすごいなと思いました。的に矢を当ててたおすゲームやいろいろな体けんをして楽しかったです。

花苗植えの時には、新かんせんから見て小松を好きになってくれたらいいなと思う心がすてきだなと思いました。すぐきれいな5つの花苗を見て、この花を植えて見たいと思いそこにすわりました。一つだけまださいてない花苗があってきれいにさくといいなと思いました。植えて、大きくなってねと水をあげました。帰り道に、重い稚松のはたを教とう先生と稚松の緑の少年団の仲間で電柱3本分歩いたら、交たいでどンドン回していきました。すごく重かったので4年生は、3人ずつで回して行きました。持ってみたら3人でもすごく重かったです。でも、楽しかったです。

学校内での緑のぼ金活動では、最初は、げたばこの近くのろうかで活動して、次に、わたしそびれた人がいないか1、2、3年生の教室に声をかけに行きました。みんなちゃんと持ってきていてうれしかったです。

わたしは、緑の少年団に入って気づいた事がありました。緑の力ってすごいんだなということです。たまに家族で山登りに行くのですがいつもかけ登っていたので今度からは、ゆっくり花や草とふれあっていきたいなと思いました。



みどりの祭典

「緑の少年団の思い出」

稚松校下緑の少年団
稚松小学校 4年

わたしは、九竜橋川沿線で花を植える時、5

つの種類のお花を、白色のお花をここにするなど、自分が植えたい位置に動かして、植えることが出来て楽しかったです。そのあとの、建物の中を見学すると、たくさんのボタンがあって、動かすのがむずかしそうだと、思いました。

11月23日の、アドベンチャーガーデンでは、雨がふっていて、地面の色々な場所が、ツルツルして、足をふみはずしそうで、とてもこわかったです。とくに、「すべり台」という遊具が、雨のしずくがあって、すべる時、とてもこわかったです。いっしょに来ていたはなこさんと「がんばれ〜」と、はげまし合いました。体けんした後、4年生での、アドベンチャーガーデンをしたみんなで、写真をとりました。がんばった感じがありました。金具をはずしたあとの、こま作りで、わたしは、ぶんぶんごまを作りました。最初は出来なかったけれど、がんばって練習したら、ついに、出来るようになりました。うれしくてうれしくて、車でも家でも、どこでも、ぶんぶん回しています。



花苗植え 10月

「緑の少年団をふりかえって」

稚松校下緑の少年団
稚松小学校 4年

ぼくは、初めて緑の少年団に入ってみてたくさんのおけいけんや思い出ができたと思います。

1つ目の思い出は県民みどりの祭です。森林公園でみんなでおべんとうを食べて楽しかったし、お兄ちゃんといっしょに金ぞくを熱して木のも様を書く工作も楽しかったです。他にもアーチェリーやわなげをやったりシートを使って坂道をすべる遊びもとても楽しかったです。

2つ目の思い出は花のなえ植えです。花を植

えるのはむずかしかったけれど、お花屋さんの先生に教えてもらいながらがんばって植えることができました。花はとてもきれいだったので植えるかいがあったと思います。

ぼくたちのこの活動で少しでも稚松校下や町に緑がふえればすてきなことだと思います。1年間がんばってみてよかったと思います。



花苗植え 10月

「県民みどりの祭典に参加して」

稚松校下緑の少年団
稚松小学校 4年

わたしは4月29日の県民みどりの祭典に参加して、感じたことは、ふつうの材料で作るのではなく、自然や森林にやさしい材料で作ったり遊ぶのがいいと感じました。

たとえば、キーホルダーを作るとき、絵をかくものが木やパーツが貝がらだったりしました。

県民みどりの祭典で楽しかったことは、みんなでいっしょに食べたおべんとうです。そんなに話したことのない5、6年生ともいっぱい話したからなかよくなれた気がするからです。

ほかに楽しかったことは、キーホルダー作りです。2つ作って、1つは木に絵をかいて作ったキーホルダーです。森をイメージして作りました。2つ目は、貝で作ったキーホルダーです。お花をイメージして作りました。



募金活動

「これからも」

木場校下緑の少年団
木場小学校 6年

今まで私は、校庭の落ち葉拾いや、緑の募金活動、能登キリシマツツジの植樹、さらに、木場瀧の東園地に行って、環境や木についてお話を聞くなどの活動や学習に取り組んできました。

はじめは、「自然を大切にしたい！」という気持ちよりも、「めんどくさい」などの気持ちのほうが勝っており、「やらなければいけないから仕方なくやろう」と思っていました。だけど、活動を続けてきて、木場小学校にはあふれる自然や森があるのだから、もっと私達が大事にしていかないともったいないと思うようになりました。

11月21日に行った、校庭の落ち葉拾いでは、雨が降りだしたけど、自然を守ってこうという気持ちを持ちながら友達と協力して、たくさん落ち葉を拾って、他の場所の人達よりも、少し長く落ち葉を拾い、一輪車いっぱいの落ち葉を集めることができました。

私はもう6年だから、緑の少年団としての活動は終わるけど、この姿を今の4年生や5年生に見てもらって、これからも続けていってほし

いと思います。そのためにも、時間を見つけて草むしりや落ち葉拾い、環境委員としてもいつも通りの仕事プラス何か環境に関する活動を積極的に取り組んでいきたいです。



5月1日 花いっぱい運動

「守っていく自然」

木場校下緑の少年団
木場小学校 6年

ぼくは、この木場小学校で、6年間いろいろな緑の少年団の活動に取り組みました。その中の取り組みには、「緑の募金活動」や、「学校前の坂道の落ち葉拾い」などがありました。このような活動を通して、植物とふれ合い、「自然と人間の共存が大切だ」という事を学びました。

まずは、「緑の募金活動」についてです。1年生や2年生の時は、「何でお金を募金して、緑を増やそうとするのかな、もう緑はたくさんあると思うけど」と思いました。けれども、5年生や6年生になってくると、集まったお金で緑を増やしている意味として、木場小学校には、たくさんあっても世界で見れば温暖化問題などの環境問題があり、今まで学んできた温暖化問題に貢献していることが分かりました。

次に「学校前の坂道の落ち葉拾い」についてです。学校前の坂道の落ち葉は、人にとっては滑ったり景観を損ねたりしてやっかいなものです。上手に処理すれば土の栄養素になって、自然を守ることに繋がります。ぼくの好きな

木場小学校の自然を守ろうという気持ちで今まで以上に力を出すことができました。

ぼくはこれらの活動で学んだ、人の生活と自然を守ることを意識して日常生活を送っていきたいです。

「守る緑」

木場校下緑の少年団
木場小学校 6年

私は、この学校生活で木場小や木場潟の自然環境を大事にしてきました。緑の少年団の活動を通して、6年生では主に「緑の募金活動」や「学校前の坂道の落ち葉掃き」、「ノトキリシマツツジの植樹」などに参加しました。これらの活動により、自然の大切さや環境を大事にしていきたいと思うようになりました。

まず、10月24日に行った「緑の募金活動」。今までも募金に参加していましたが、集まったお金はどこに行くのかをあまり知りませんでした。募金する側になり森林などの緑を大切にするために使われると知りました。緑の募金の意味と大切さを改めて分かり、参加してよかったですと思いました。

次に、11月21日の「学校前の坂道の落ち葉掃き」です。「学校をきれいにしたい」という思いと、理科の授業で習った「植物は二酸化炭素を取り入れ酸素を出す」というありがたさを感じながら落ち葉掃きに取り組みました。5年生は学校前の坂、6年生は運動場の鉄棒周辺の落ち葉を取り除きました。5・6年生で場所を分けて協力して取り組み、きれいにしてきた気持ちと自然を守ったという気持ちでした。20分間作業を続け、集まった落ち葉を見て達成感がありました。

これからも緑を守ることはもちろん、それ以外の水や空気などの自然を大切にしたい気持ちを持って、生活していきたいです。



9月22日 ノトキリシマツツジ植樹

「緑の少年団に取り組んで」

木場校下緑の少年団
木場小学校 6年

私は、緑の少年団の活動に参加して分かったことが二つあります。

一つ目は、緑の募金活動についてです。私は、「人や環境のためになりたい」と思いながら参加しました。参加したことで、募金をすれば、自然環境を守ることができ、それが人の生活にもいいことが分かり、自分もいい気持ちになりました。もし、このような機会があったら人や自然環境のためになるために自分から進んで参加したいなと思いました。

二つ目は、学校の前の坂道の落ち葉拾いです。去年と比べて落ち葉の量が多かったですが、みんなと協力して、坂道や運動場をきれいにすることができたのでよかったです。そして、理科の授業で、植物がなくなると人間は生きられないことを学習したので、落ち葉拾いは大変でしたが、「自分や身の回りの人が生きるために必要だ」と思いながら一生けん命に取り組みました。

これからも、このような活動があったら、募金や自然環境、身の回りの人を守るための取り組みを自分から進んで参加していきたいと思いました。そして、植物がなくなると人間が生きられないので、植物を大切にしていきたいです。

「自然のためにできること」

木場校下緑の少年団
木場小学校 6年

ぼくは、今まで自然に親しみながら緑の少年団の活動に参加できました。活動を通して分かったことが二つあります。

一つ目は、緑の募金活動についてです。緑の募金では、「自然のために募金をしたい」という思いで無理しない程度の額をもってきてもらいました。活動する中で募金をすることで少しでも環境のためになっていることが分かりました。ぼくも募金しました。自然のために募金できたのは良かったです。

二つ目は、落ち葉拾いです。学校の坂や校庭には11月ごろに落ち葉が落ちてきます。ぼくは、ほうきで落ち葉をはいて集めたり、ちり取りに集めた落ち葉を入れたりしました。今回は、昼休みの時間ギリギリまで使っても落ち葉が拾いきれませんでした。10月の暑い日から1か月も経たずに、「落ち葉がこんなにもあるのか」と驚きました。それに、この活動が次の自然につながっていることも考えることができたのでした。

緑の少年団の取り組みを通して、学校や家の近くにある自然に親しむと共に、このような取り組みに参加することで周りの自然を守っているという実感を持つことができたので、このような気持ちを忘れずに今後も自然を大切にしていきたいと思いました。



11月21日 落ち葉掃き

「自然を保つために」

木場校下緑の少年団
木場小学校 6年

この木場小学校は、自然にめぐまれています。今年、みどりの少年団として、二つの活動を行いました。

一つ目は、緑の募金活動です。運営委員会が中心となり、朝、児童玄関の前で募金を行いました。集まったお金は、植樹や国内の森林整備、被災した人への支援などに使われていることが分かりました。次も、機会があったらぜひ協力したいです。

二つ目は、落ち葉拾いです。木場小学校の周りには木がたくさんあるので、毎年たくさんの葉が落ち、それを拾う活動をしています。落ち葉拾いは、5年生と6年生だけだったのですが、みんなで協力し、たくさん集めることができました。これからも、草刈りや植樹などがあつたら自然環境を守っていくために積極的に参加したいです。

自然豊かな木場小学校を守り、木場小学校をより良くするために、様々な活動に参加すると共に、今度は自分達でこの木場小学校がより良くなる活動もたくさん考えたいと思いました。さらに、自然は人間が生きるために必要な事なので、木場小学校だけではなくもっとたくさん自然を守る活動に参加していこうと思いました。

「緑の少年団で学んだこと」

日末緑の少年団
日末小学校 6年

私は緑の少年団で勇気を出して挑戦すれば楽しくなっていくことを学びました。

最初は募金活動に出ようか迷っていたけど、勇気を出して出てみたら楽しかったです。募金で声を出すときも緊張したけど声を出してみれば、たくさんの方が募金してくれて、ほかの学校の子も合わせて声を出してくれて楽しいこと

がたくさんありました。

最初は少し緊張したけれど、やってみると楽しくて長いと思っていた30分間が短く感じられました。終わった後には施設の方が「ありがとう」と笑顔で言ってくれたのですごくうれしくて、やってよかったなと思えました。この能登半島大震災募金で、挑戦したらうれしいことや楽しいことがあると分かりました。また何かがあつたら、自分ができるかと思ったら、迷わず挑戦したいです。



「募金活動を通じて感じたこと」

日末緑の少年団
日末小学校 6年

私は5年生のとき、緑の少年団に入りましたが、そのときは花を植えるなど少しの活動しかできなかったのが6年生になったら「もっと緑の少年団で活動がしたい!」と思いました。

そして、6年生の2学期に先生から、「緑の募金活動してみたい人は応募用紙に書いてください」と言われ、家に帰ってすぐにお父さんとお母さんに募金活動の日は空いてるか、車で送ってもらえるかを聞いて、「いいよ」と言ってくれたので、すぐに参加と書いて次の日に応募用紙を提出しました。

当日、募金活動をやってみると、自信满满だった気持ちが段々と消えていって、恥ずかしくて小さな声でしか「募金お願いします。」と言えませんでした。でも、その小さな声でも、沢

山の人が募金をしてくれて段々と恥ずかしい気持ちが消えていきました。それはみんなもいっしょで、栗津小学校の2人も日末小学校の4人も、徐々に大きな声で募金活動ができるようになりました。すると、段々と募金をしてくれる人が増えていきました。そして私はこの時の募金活動を通してどれだけの人が能登半島大震災への気持ちがあるのかを改めて実感することができました。

私のようにはじめは恥ずかしい子も、緑の少年団に入りみんなで活動すればいつの間にか恥ずかしさがなくなり、たくさんの人の思いに触れることができることを伝えたいです。



「緑の少年団の活動をして」

日末緑の少年団
日末小学校 6年

能登半島地震がおこり、私にできることはなにかないのかと考えていた時、「能登半島地震の募金の声かけをしてみない。」と教頭先生に聞かれ、私はこれだと思い、参加することにしました。

いざ参加してみると緊張のあまり声が出なくて周りの人も少ししかお金を入れてくれる人がいませんでした。これではだめだと思いました。勇気をふりしぼって「能登半島地震のために協力お願いします!!」と声を出しました。すると、みんながこっちを見てくれ、急に募金してくれ

る人が増えました。私は、グンとやる気がわいてきました。声かけをすることでこんなにも変わるのかおどろきました。何より能登の人々のために、沢山の募金を集めたい一心でした。その日は寒く雨も降っていたけど最後までやりきりました。

少しは能登の人々の役に立てたと思います。同時に、私もだれかの役に立てるということが自分の自信につながりました。



「緑の少年団の活動をして」

日末緑の少年団
日末小学校 6年

わたしが、緑の少年団の活動をしてみて心に残ったことは、能登半島大震災の募金活動です。募金活動では、同じ学校の友達もいたり、ちがう学校の子もいたりして、はじめは緊張して、大きな声を出すことができなかつたけれど、募金してくれる人がたくさんで、「がんばってね」とやさしくいつてくれたので、そのあとは、自信をもってちがう学校の子とも、いっしょに大きな声を出しながら、「能登半島大震災、募金おねがいします」などと、いう事ができたので良かったです。そして、大きな声をずっと出しているのはつかれたけれど、みんなで順番に声を出していきながら、募金活動が出来たのが一番の思い出です。募金活動は、緊張して、とてもつかれてしまうけれど、募金してもらったり、いっしょに声を出したりしながらあつとい

うまに時間が過ぎて、いつのまにか募金活動は終わっていました。そして、楽しく募金活動ができたのが一番うれしかったです。

ぜひ、これから中学に入った後も、募金活動やボランティアなど手伝えることはたくさんしていければいいな、と思いました。そして、緑の少年団をすることで、自然も大切にすることができし、募金もしてもらえるし、楽しんで、いろんなことが学べるとわかりました。



「地球に緑を」

国府緑の少年団
国府小学校 5年

私は、今年緑の少年団をして地球には緑が足りない事がわかりました。森林ばっさいや土地にするために森林を平地にしたりなど、人の活動で地球にはどんどん緑が減ってきています。緑がなくなったら地球は大変な事になります。例えば、この地球に動物がいなくなります。なぜなら森や林がなくなるからです。

他には、自然災害のひ害が大きくなります。なぜなら水害のひ害を防ぐために水害防備林がせっちされているからです。台風や強風のひ害を防ぐのは防風林です。水害防備林と防風林は、命を守るための物です。なので、地球には緑が必要です。だから、みなさんも地球に緑を増やすために活動してみてもどうですか？

「緑の少年団になって分かったこと」

月津みどりの少年団
月津小学校 6年

私は4年の後半の時に、「緑の少年団に入りませんか」というチラシを見て入ってみたいになって入りました。

初めて参加した活動は緑の祭典です。緑の祭典では、自然を使ったキーホルダーや遊びを体験しました。たくさんの人が緑にふれられて、緑の事を学べて、すごくいい活動だなと思いました。

次に参加した活動は、緑の募金活動でした。緑の募金活動は、朝早くから起きて玄関に立ちました。朝早く立つのが大変だったけど、募金で集めたお金が思った以上にたくさんあっておどろきました。

緑の少年団の活動を通して学んだことは、自然の大切さです。自然がなければ紙や服もつけれないからです。このことを生かして、これからも自然を大切にしていきたいです。

「みどりの大切さ」

月津みどりの少年団
月津小学校 6年

私がみどりの少年団に入った理由は、5年生の時にお便りをもらって交流活動が楽しそうだったからです。興味をもったので、友達と一緒に入りました。

交流活動の中で思い出に残っていることは、みどりの祭典やみどりの募金活動です。みどりの祭典では、木を使ってキーホルダーやおもちゃなどを作り自然の大切さを感じることができました。みどりの募金活動は、朝早くに学校へ行って玄関でみんなに募金の声かけをしました。全校の皆さんや先生たちが募金してくれたおかげでたくさん集まりました。みんなが募金してくれて、嬉しい気持ちになったし、活動に協力できたと思います。

みどりの少年団に入ってみどりと触れ合うことの楽しさや大切さを知れたので、これからもみどりと向き合っていこうと思いました。

「体験して気付くみどりの大切さ」

月津みどりの少年団
月津小学校 6年

ぼくは、みどりの体験をたくさんしてきました。初めての体験は、みどりの祭典でした。みどりのことや取組など、ぼくは全然知りませんでした。しかし、この体験でみどりを使った楽しい遊びやみどりで作る道具づくりを通して、みどりの大切さに気付きました。

次の体験はみどりの募金活動です。木々を育てるための費用などを集める活動に取り組みました。「みどりの募金、ご協力お願いします。」と大きな声を出し、募金してもらいました。この体験でみどりは人とつながっているんだなと思いました。

このつながりや関わりを続けることが大切だと思いました。

これからも、周りのみどりを大切にし、共に生きていきたいと思いました。みどりに囲まれ幸せでした。

「みどりの少年団に入って」

月津みどりの少年団
月津小学校 6年

私は、5年生の時に、6年生がみどりの少年団の活動をやっているのを見て、「私もやってみたいな」と思い、みどりの少年団に入りました。

みどりの少年団では、緑の募金や緑の祭典、その他にも、自然を使った物や、季節に合ったものを作ったりして、自然を大切にすることや緑を増やすことが大切だということを学びました。また、自然に親しんだりすることができ、地球温暖化についても、深く考えるようになり

ました。

このように、みどりの少年団では、自然環境についてたくさん学ぶことができ、緑についても深く考えることが出来ました。そして、これからは自然を大切にしていきたいと思いました。

「欠かせない緑」

月津みどりの少年団
月津小学校 6年

私は、緑の少年団に入って緑は私たちにとって欠かせなく、大切にするものだと実感するような体験がたくさんありました。

緑の少年団の活動は他では体験できない貴重なものでした。その中でも私は二つの活動が特に緑を実感できたと思いました。

一つは「緑の祭典」です。祭典では木のキーホルダーを作ったり、木を使った遊びなどがあり、緑があふれ、緑にふれ合うことができる大切な活動でした。

二つ目は、「緑の募金」です。「緑の募金」は朝早くに学校へ行き、玄関に立ちました。二日間にわたりこの活動が続き、お金がたくさん集まりました。私はこのお金で、緑いっぱい豊かな世界に少しでもなりたいと思いました。

このような緑の少年団にしかない貴重な体験のおかげで緑の大切さが分かりました。緑の少年団に入ってから今までであっという間だったけどとても楽しかったです。

「みどりの少年団の思い出」

月津みどりの少年団
月津小学校 6年

私がみどりの少年団に入った理由は、4年生の時に、「みどりの少年団の団員になりませんか」というチラシを見て、楽しそうだなと思ったからです。

みどりの少年団に入ってもまずは、緑の祭典に行きました。そこで木を使ったキーホルダーを

作ったり、ゲームをしたりしました。みんなで一緒にご飯を食べたりもしました。

緑の募金では、町の緑を豊かにするための募金活動をしました。先生も生徒も学校の色々な人が募金をしてくれてうれしかったです。

みどりの少年団は、友達と楽しく交流できたり、緑の大切さを知れたりして楽しかったです。中学生になっても緑を大切にしていきたいです。

「緑の少年団の思い出」

月津みどりの少年団
月津小学校 6年

ぼくが緑の少年団に入った理由は5年生のときに緑の少年団のチラシをもらって緑の大切さを知りたかったからです。

5年の時と6年生の時に心に残ったことは、緑の祭典と緑の募金です。緑の祭典はたくさんの緑とつながっているイベントがたくさんありました。廃材を使った工作ができる物やたくさんの体験をすることで人が生活するのに欠かせない大切なものなのだとわかりました。

緑の募金では、緑の募金を通して緑にこうげんできるのがうれしかったです。緑の募金をしてくれる人がたくさんいてうれしかったです。みんなもこれからがんばってください。

「緑の少年団に入ってよかったこと」

月津みどりの少年団
月津小学校 6年

私は緑の少年団に入って、普通では出来ないことをたくさんしました。緑の少年団に入って、緑の大切さがわかりました。

最初の活動は緑の祭典で、緑に関する物を作りました。例えばキーホルダーです。木のかおりがして自然を感じました。

次の活動は募金活動です。朝早く玄関に立って、募金活動をしました。みんなに緑の大切さ

を知ってほしいという思いで真剣に取り組みました。

緑の少年団に入って貴重な活動がたくさんできました。緑を大切に、自分たちでできることをたくさんやっていたと思います。

「ぼくと緑」

月津みどりの少年団
月津小学校 6年

自分は、緑の少年団に入り、勉強になる体験や楽しい体験をたくさんしてきました。その中でも印象に残っているのが緑の祭典です。

緑の祭典ではいろんなワークショップを体験でき、たくさん勉強になりました。特に木を使って作るキーホルダーがとても楽しかったし自分が初めて自然って素晴らしいと思えました。

そして、募金活動は自分が初めて緑のために活動できたと実感しました。緑の少年団に入っている活動ができてとても楽しかったです。

「緑の大切さとわたし」

犬丸せんだん緑の少年団
犬丸小学校 5年

わたしは、5年生になって緑の少年団の活動に参加して、(今の世界では緑がどれだけいいものなのか、知らない人が多いかもしれないな)と思いました。わたしは、自分が緑の少年団に参加して、苗植えや水やりをしていると、とてもゆっくりと緑を見ることができました。そうやって見ていると、とても落ち着くし、元気が出ます。だから『緑はいろんな人がみても落ち着くし、とても元気がでる色』なのだと考えました。それで緑の大切さを知ってほしいなと思うようになりました。

また、緑にはさまざまな役割があり、人々の生活や地球の未来にとって大切なことも学びました。たとえば、植物は二酸化炭素を吸収して

酸素に変換する「光合成」をおこなうため、地球温暖化の防止に役立ちます。このように、緑は生活や地球の未来にとって大切です。

わたしは、緑の少年団の活動の中で、緑の大切さや緑について世界中の人にも知ってもらって、緑を大切に、緑で元気が増えてほしいと思いました。



稲刈り～ひやくまん穀の収穫

「心に残る緑の少年団活動」

犬丸せんだん緑の少年団
犬丸小学校 5年

僕が緑の少年団で心に残ったことは三つあります。

一つ目は2024年花のコンクール大賞で銀賞を取ったことです。みんなの頑張り、まとまりがあって銀賞を取れた気がしました。

二つ目は募金活動です。みんな朝から頑張っ学校に来て、募金活動の協力をしてくれました。一日目も二日目もみんな大きな声で「緑の募金活動よろしくお願ひします。」と呼びかけをしてくれました。

三つ目は花壇のお世話です。みんな手が茶色になるまで花を植えてくれました。植え終わった花壇を玄関や職員玄関にきれいに並べることができました。

僕は副団長として、北部ブロック緑の少年団活動で板津地区体育館に花植えの時、団長が都合でない時は、僕がみんなをまとめて花植え

ができました。ほかの学校の人とも緑の少年団活動の時しっかりとやってくれました。花植えが終わった後も水やりをしてくれました。2回目の北部ブロック緑の少年団活動もみんな寒い中頑張ってくれたおかげで花植えができました。本当にみんなには感謝しています。

また、米作りの時も農家さんの大変さや、頑張りがすごくわかりました。大きな鎌を使って、米を収穫し、脱穀機の中に米を入れて脱穀しました。脱穀したお米は、精米してもらい、みんなに配ってもらいました。食べるともちもちな食感でした。稲刈りでは、田んぼの中はドロドロな泥で足がすくわれそうになりました。それでもみんな汗をかきながら大切なお米を収穫しました。皆嬉しそうです。

いろんなことをみんなで一生懸命できたので、これを企画してくれた皆々様に本当に感謝します。



学校の花壇での植栽活動



地区体育館での植栽活動

「緑の大切さとわたし」

犬丸せんだん緑の少年団
犬丸小学校 5年

私は、玄関の花だんの観察をよくしています。登校して、学校についたら、花を見て入ることが多いです。私たち5年生は緑の少年団の活動をして、春と秋に苗植えをしました。土を入れて鉢の中にきれいに見えるように考えて並べて、玄関にどう並べたらいいかみんなで考えました。チューリップやパンジーなどいろいろな花を植えました。私は花で人の心を明るくできるということを、前よりもっと知ることができました。これからも花だんの花をお世話して元気に育てて、いろいろな人の心を明るくさせていきたいです。始めたときは、水やりをときどき忘れてしまうこともあって、よく朝の会などで呼びかけがありました。花の大切さを意識して、これからも水やりを忘れることがないようにがんばりたいです。

今年は玄関の花だんで、銀賞をとることもできました。私もクラスのみんなども喜んでいましたが、これからも花のお世話をして今とった賞よりももっといい賞をとりたいです。

自分たちで植えた花は、いつ見てもきれいだし、毎日楽しむことができます。これからも花を植えたり、花のことについてもっと知ったりしていきたいです。水やりもちゃんとして、人の心をもっと明るくできる花を育てていきたいなと思いました。

「団長として学んだこと」

犬丸せんだん緑の少年団
犬丸小学校 5年

私は、団長として学んだこと・心に残ったことがあります。心に残ったこと・学んだことは、四つあります。

一つ目は、「花のコンクール大賞」で銀賞をとれたことです。みんなで、水やりや花植えを

頑張った成果が出たんだなと思いました。最初は、「花植えとかどうすればいいん？」という声が多くありました。土をこぼしてしまったり、植え方がガタガタになってしまったり。そういったトラブルが続き、私は、改めて、花植えて大変だなと思いました。でも、みんなで力を合わせ、協力し、花にたくさんの私たちの思いを乗せて、コンクールに応募した結果、銀賞に届きました!!金賞には届かなかったけどみんなの力を合わせたことや、水やりを頑張ったこと、その頑張りは、きっと、金賞だと思います。

二つ目は、北部ブロック緑の少年団活動です。土を新しいのに混ぜて、花が枯れたのを、とったり…といろいろすぐく大変でした。だけど、苦労して、花がきれいに並ぶのを見たら、頑張ってたよかったです。そして、秋の活動は途中で抜けてしまったけど、始めのあいさつはしっかりできたし、写真を見ると、春よりも、素早く行動できるようになっていて、すごいなと思いました。

三つ目は、田植え・稲刈りのことです。私が田植えをしたときは、すごく寒くて、手が凍ってしまうかと思うほどの寒さでした。初めて泥の中に足を入れたとき、ねちょねちょした感触が気持ち悪かったです。でも、昔の農家さんの苦労や大変さを知ることができました。

稲刈りは、稲を刈るのに腰を曲げて、鎌で刈るのが難しかったし、自分の手を切ってしまうか不安もありました。今は、機械があるから、便利だけど、昔は、機械なんてものがなく、全部手作業で行っていました。私はこの体験をして、昔にワープしたような感じがしました。この経験は、昔の人たちの苦労さがわかる、いい体験ができたなと思いました。

四つ目は、自然の大切さについてです。緑の少年団活動を通して、改めて、「自然」という大切さがわかりました。自然を守る、緑を守ることは地球温暖化の防止、水環境の保全、大気環境の保全にもつながるので、緑の少年団活動がどれだけ大切かわかりました。自然、緑を守ることで、将来の人間の生存に欠かすことのできない基盤となることになるので、緑があるこ

とに、感謝したいです。

私は、色々な経験をして、昔の人たちの苦労や、大変さ、緑があることを誇りに思っています。私は、緑の少年団に参加してよかったなと思いました。私はこの気持ちを、決して忘れることはないでしょう。

次の5年生にも、自然を守ることは、将来にもつながるということを知ってもらえたらいいなと思います。私は、この活動を通して、自然を守る活動をこれからもずっと継いでいってほしいなと思いました。

「緑をつくるみんな」

犬丸せんだん緑の少年団
犬丸小学校 5年

ぼくががんばったのは、緑の募金をするために早く学校に行ってみるにいっぱい募金をしてもらったことです。二日間行うのですが、二日間とも早く学校に行き活動しました。

花の水やりでもがんばりました。一学期の様子では、みんなで当番を決めて水やりしていましたが、忘れることがあったのか、かれてしまった花もありました。だから、二学期にはそんなことにならないようにみんなで話し合っ、ぼくも花の水やりを少しずつし、毎週花をかれさせないようにがんばることができました。

みんなのことで、すごいなあと考えたこともあります。それは、土曜日に板津地区体育館に行き苗植えを自分からしていたことです。ぼくは行っていないけれど、行きたいと自分から言ってすすんで植えているのがすごいなと思いました。そういう活動に今度はぼくも参加してみたいと思いました。これまでを振り返って、一番うれしかったことは、僕の中では募金活動です。朝早くからがんばって学校に行き待っていて、みんなが募金をしてくれたことがうれしかったです。募金活動をするのはいままではなかったのですが、募金してくれた人に緑の羽根を渡すのも楽しかったです。これからもお店に募金箱があったら募金をして、緑を増やしてい

きたいです。



児童玄関前での募金活動

「がんばったみどりの少年団の活動」

松東みどりの少年団
松東みどり学園 6年

6年生になり、初めてのみどりの少年団の活動は、4月29日に石川県森林公園で行われた県民みどりの祭典への参加でした。石川の木を使ったキーホルダー工作や様々なゲーム、石川の海岸の貝やごみを使った工作など、自然にやさしく楽しく学べる取り組みを学ぶことができました。これからも木をはじめとする自然を大切にしていきたいという気持ちになりました。

また、10月6日には、校区の大倉岳高原スキー場で行われた大倉岳高原祭りの会場で、緑の募金活動も行いました。この活動は参加人数があまり多くなく、私も募金活動するのが初めてだったので、不安が強かったけれど、少ない人数でも大きな声を出して募金活動に取り組むことができました。大きな声で募金を呼びかけると、知っている人だけでなく知らない人にも、たくさん募金をしてもらうことができました。緑の羽根もたくさんの人につけてあげることができ、心が明るくなった気がしました。4人で集めた募金は、13,841円でした。このお金は石川県内の森づくりやみどりの少年団の活動に活用されるということなので、がんばってよかったなと思いました。この活動も次の6年生にも受け継いでほしいと思います。

「クマのえさ場づくりの植樹活動」

松東みどりの少年団
松東みどり学園 6年

私たち松東みどりの少年団は、松東みどり学園6年生全員が団員です。みどりの少年団の今年最後の活動として、植樹活動を行いました。

10月10日、植樹を行ったのは校区の大杉町の里山です。小松市内でもたくさんのクマが目撃され、時には人に危害を与えることがあります。それで、クマが人里に下りてこないように、クマのえさ場づくりとしての植樹を行うことになりました。

学校からバスで大杉町の山奥に移動して、森林組合の方に植え方を教わってから、クマのえさとなるコナラを2本、ミズナラを1本ずつ植えていきました。シャベルで穴を掘ると、穴の奥にたくさんの石が混ざっていて、それを取り出すのがとても大変でした。でも、クマや森の生き物たちのために、みんなでたくさんの木を植えることができよかったです。

10年後、クマたちが私たちの植えたコナラやミズナラの木の实を食べてほしいです。そして、自分たちが植えた木が未来の自然や生き物、そして人々を守っていくことにつながってほしいと思います。来年の6年生にも植樹活動を引き継いでほしいと思います。



「自然のおかげでわかったこと」

和気校下縁の少年団
和気小学校 6年

私が自然とふれあってわかったことは2つあります。

1つ目は、虚空蔵山ウォークラリーです。虚空蔵山ウォークラリーは1年生の頃から行っている行事ですが、毎年面倒くさいなと思っていました。でも、6年生になって他学年を引っ張っていかないといけないし、自然にも触れてみようと思い、葉っぱやきのこなどよく観察しながら登ってみる事にしました。そうするとその葉っぱごとによって違う魅力があり、意外と面白いんだなと思いました。葉っぱはすべて似ているように感じるけれど、全部模様などが少し違うので、その違いを見つけるのとか葉っぱの魅力を調べるのとかが面白いと思いました。自然のおかげでまた新しい楽しみがわかりました。自然の楽しさを知ることができて良かったです。

2つ目は、みどりの少年団の奉仕作業です。奉仕作業では今まではほとんど校舎内の水拭きなどしかやったことがありませんでした。でも、6年生になって初めてちゃんとした草刈りをしました。今まではグラウンドの少し草が生えている部分しかやったことがなかったので、今までより刈る量も多くて少し大変でした。でも、私みたいに奉仕作業などで草を刈ったりすることで、全校のみんなが快適に過ごせると考えると、やってよかったなと思えます。森林伐採をすることでみんな快適に過ごせているので、やっぱり自然のままで手を加えないのも大事ですが、人が手を加えることによって成り立っているんだなとわかりました。私はいつも何かをするとき最初は面倒くさいと思うけれど、やってみて自然のよさを知ることができるし、自然のおかげでみんなと繋がることのできると思うのでやってよかったと思います。

これからも自然の良さを知るまでは大変なこともあると思うけれど、そのよさを知るには一

回自分でやってみないと次に繋がらないので、これからは何事も一回自分でやってみてから頑張りたいと思います。

「自然豊かな和気小学校」

和気校下緑の少年団
和気小学校 6年

和気小学校では、5、6月に和気小学校の行事で、虚空蔵山ウォークラリーがあります。虚空蔵山ウォークラリーでは、リーダーの6年生がたてわり班の赤黄青紫のA Bにわかれて、山を登りながら到達点についたらシールをはる行事です。私達6年生はみんなのお手本となって、前を歩きます。そして5年生たちも6年生を見習って、1年生や下級生たちに、

「ここ危ないから気をつけてね」

と声をかけます。また、児童会の運営委員が考えたゲーム、ビンゴなどをしてみんなは楽しんでいました。虚空蔵山のやっほー岩では、みんなが、

「やっほー」

と叫んでいました。どの学年の子も日常では触れられないことに触れることができ、学んでいました。その他に学校の校舎の窓から虚空蔵山の方を見ると、鹿や鳥などを見ることができます。

私達5、6年生は夏のプールの時期が近くになると、プール掃除をします。プール掃除では違う学年でも協力し合い、積極的に掃除をしました。また、学校ではみどりの少年団の奉仕作業があります。奉仕作業には、私達和気っ子とその親も参加をします。奉仕作業では親と子ども同士が仲を深めることができます。みんないつも気づいてない学校のことなどを奉仕作業では知ることができました。

最後に、和気小学校では4年生になるとしたけの菌を植菌したり、6年生では、総合で朱鷺について学び環境も学んだりします。だから、朱鷺が来ても巣を作れるようにするために、どんぐりの苗木を虚空蔵山に植樹したり、田んぼでお米を作ります。お米を無農薬で作ること

はどれだけ大変かを学ぶことができました。自分で作ったお米はとても美味しかったです。

また、和気小学校には、自然観察クラブがあります。自然観察クラブでは、虚空蔵山に登ったり、地域の先生が教えてくれた葉っぱを探したりしています。また木をわって火をおこしたりしていて、とても楽しかったです。

このように、私は和気小学校で授業やクラブ活動などで自然とふれあってきて、あらためて自然の大切さを学ぶことができました。

「自然に教えてもらったこと」

和気校下緑の少年団
和気小学校 6年

私は、この6年間で自然に教えてもらったことがたくさんありました。

1つ目は虚空蔵山ウォークラリーです。毎年5月に虚空蔵山に登る虚空蔵山ウォークラリーがあります。虚空蔵山に登ると普段の道にはないような花や、葉っぱがたくさんありました。他にも初めて見るきのこを観察したり、葉っぱの匂いを沢山かぐ事ができ、楽しみながら、いろいろなことを知る事ができました。そして、1年生から6年生のみんなで登るのでみんなの仲を深める事ができ、とてもいい行事です。

2つ目は5、6年生で行う田植え・稲刈りです。学校の近くにある田んぼを借りて田植えと稲刈りをしました。田植えのときは田に稲を植える作業がとても大変でした。腰が痛くなったり、顔に泥がかかったりして田植えの大変さを知りました。稲刈りでは稲を刈ったり、稲を運んだりする作業が大変でした。3分の1をコンバインで刈ってもらい、5、6年生全員で稲刈り作業をしました。それでも時間はたくさんかかったし、とても大変でした。5年生の学習の関係で無農薬では育てられなかったけれど、農薬を使っても雑草がたくさん生えていてとてもびっくりしたし、米を作る大変さを知りました。

3つ目はみどりの少年団の奉仕作業です。先生やお家の人、5・6年生のみんな協力して

学校の周りをきれいにする行事です。奉仕作業では、草を刈るときにいろんな生き物を観察したり、触れ合えたりします。草を刈るのは少し大変だなと思っていたけれど、草を刈ると、いろいろな昆虫がいるし、終わったあとの達成感があり楽しいと感じました。いろんな昆虫と触れ合えて充実した気持ちになりました。

4つ目は普段の生活で触れ合える自然です。私は通学路では、帰り道に花の蜜を吸ったり、秋になると落ち葉で遊んだりしました。学校で授業をしているときは、たまに虚空蔵山から降りてくる動物を見ます。虚空蔵山からはカモシカがたくさん和気小学校に遊びに来ています。

私はこの6年間、自然に教えてもらったことがたくさんありました。私はこれからも下学年や今後和気小学校に入学する後輩に自然から学んだことを教えてあげたいと思います。

「自然の大切さ」

和気校下緑の少年団
和気小学校 6年

私が通っている和気小学校には、自然に関する行事が沢山あります。

1つ目は虚空蔵山ウォークラリーです。虚空蔵山ウォークラリーは、全校のみんなで学校の隣にある山に登るという行事です。内容は、全校のみんなで集まり、赤A、赤Bなどの8チームに分かれて、一列ずつで、山に登って行きます。1チームに一つビンゴカードがあり、ビンゴに書いてあることをして、それができたらシールを貼ります。虚空蔵山ウォークラリーは、自然に触れたり自然に関する知識を少し身につけたりすることができる楽しい行事だと思います。この季節に虚空蔵山へ登ると、暑いけれど、緑がたくさんできれいな景色が見られるので、私の好きな行事です。

2つ目は、田植え、稲刈りです。田植えと稲刈りは、学校の近くの田んぼで、色んな方と協力しながらやりました。農家さんの大変さを知って、心から農家さんのことを尊敬しました。

私は総合でトキのことも学んでいるので、トキも人間も住めるような世界にしたいなとも思います。私達にできることがあれば、少しずつ行動していきたいです。

3つ目は、どんぐりの苗木の植樹です。この行事では、虚空蔵山の少し上まで登って、みんなでどんぐりの苗木を植えました。少しつかれたし、やり方が分からなくて困っていたりしたけれど、友だちが教えてくれて、最終的には結構うまくいって、うれしかったです。みんなで植えたどんぐりの木が、元気に育ってくれることを願いたいと思います。いろいろな面白い形の木や、きのこなどがあつたので、自然は面白いところもあるんだなと実感しました。

4つ目は、奉仕作業です。奉仕作業は、学校の周りの草むしりなどをして周りを整える行事で、友達や先生と一緒に協力して草むしりをした時、「あ、意外と楽しいんだ。」と気づきました。

私は、すごく疲れてしまう行事もあるけれど、大体の行事が楽しくて、全校のみんなも楽しいと言ってくれる行事ばかりで、楽しんでくれていて良かったなと思いました。

(3) 石川ブロック

「広がる緑の募金活動」

「緑の募金活動に参加して」

白嶺小校区緑の少年団
白嶺中学校 3年

私はこれまで、募金をする機会があれば、積極的にしてきました。そして、それが当然だと思いついていました。ところが、今回初めて募金を呼びかける活動に参加して、思った以上に募金をしてくれる人が少ないことに驚きました。

私は、この緑の募金への関心がもっと高まれば、募金をしてくれる人が増えると思いました。そこで、自分なりの改善策を考えてみることにしました。

一つは、集まったお金がどのように使われるのか、もっと多くの人に知ってもらうことです。特に、自然豊かな地域で生活している私たちがそれを知ることは大切だと思います。

二つ目は、より多くの人に募金を呼びかける活動を経験してもらうことです。今は生徒会役員だけで行っていますが、役員以外の人でもどんどん参加できるようにします。

そうすれば、緑を守り、育てるこの募金の大切さもわかり、もっと関心が高まると思います。多くの人たちの関心が高まるように、これからも緑の募金に協力していきたいと思っています。



白嶺小校区緑の少年団
白嶺中学校 3年

僕は前期生徒会役員として緑の募金活動をしました。この活動を通して自分の学校の生徒はとて優しくて、約束を守ってくれる、信頼できる人たちだと僕は思いました。

なぜそう思ったかということ、初日に募金を忘れた人が、約束どおり次の日にちゃんと持ってきてくれたからです。また、毎朝玄関前であいさつ運動をしながら募金活動をしていると、明るい笑顔で元気よくあいさつしながら募金箱にお金を入れてくれる人がとても多かったからです。あまりにうれしくて、僕も笑顔になりました。お互いに元気なあいさつをして募金を受け取りました。僕は、募金活動はとてすてきな活動だと思いました。

僕は、緑の募金はみんなが笑顔になれる、温かい気持ちになれる、そして自然も守れる、とてすてきな募金活動だと感じました。だから、例えばネット上からの募金も含め、いろいろな人がいろいろな場所で、方法で募金できるように、もっと情報発信して募金活動が広がっていけばいいと思いました。緑の募金活動で資金を増やし、自然環境の改善が石川県から日本中へと広がっていくことを願います。



「緑の募金活動の意義」

白嶺小校区緑の少年団
白嶺中学校 3年

私は、これまで緑の募金の重要性をあまりよく分かっていませんでした。しかし、実際に募金活動を実施してみると、その重要性がはっきりとわかるようになりました。

それは、これから自分たちが使う木材を作ることや豊かな自然を守り、未来の人々の生活を守るために必要な資金を集めているということです。つまり、私たちが今、集めているお金は自分たちの未来を守るために集めているということです。だから、そこをみんなで理解すれば、手間をかけても募金活動をする意義に気づくはずで

す。その大事な意義を多くの人に理解してもらうにはどうすればいいのでしょうか。それは、知っている人が恥ずかしながら、どんどん広めていくことだと思います。「ちりも積もれば山となる」というのが募金です。自分のためと思い、知らない人は調べ、知っている人は広めるようにしてみませんか。



「緑の募金活動を通して」

白嶺小校区緑の少年団
白嶺中学校 2年

私は、初めて緑の羽根の募金活動に参加して、その大変さを知りました。期間中は毎朝玄関に立ってあいさつ運動をしながら、全校生徒に呼びかけるのは大変でした。でも、「僕たちの募金が役立ち、森などの自然が守られて、動物たちがずっと生息していく」と思うとうれしくなってきました。

これからも、自分たちが募金をして、そのお金が地域の自然の活性化につながり、より良い地域になってほしいと思います。だからこそ、長い歴史のあるこの活動を続けていく意義があると思います。

この活動は大変な時もあります。でも、その分きっと、自然に役立ち、将来豊かな自然となって返ってくる。この活動をして、より一層そう感じる良い機会になりました。次も募金をする側として参加して、自然を守っていきたいです。



「守りたい自然」

鳥越小学校緑の少年団
鳥越小学校 6年

秋になると、私の家からとてもきれいな紅葉の山が見えます。この山は、葉が色とりどりになってとてもきれいです。この時期は、その景色を見ると心がスッキリします。冬になると、緑の山に白い雪がかぶさっていて、とても心が落ちつきます。春になると、桜や緑の山が見えてきて、一年がんばるぞという気持ちになります。

こんなふうには季節によって見える景色がちがう、そして、いつ見てもきれいで落ち着くこの自然をこれからも守っていきたいです。

「豊かな鳥越の自然」

鳥越小学校緑の少年団
鳥越小学校 6年

私の家の周りは植物だらけです。車庫のすみっこはマリーゴールド。家の窓には、フウセンカヅラのカーテン。畑には、キンモクセイの木や季節の野菜が植えてあります。この植物たちは、私のお父さんが育てています。夏になったら、畑でとれるトマトやトウモロコシを食べます。そのトマトとトウモロコシは、とてもおいしいです。おいしいわけは、お父さんがいてねいに育てているから。かもしれませんが、やっぱりこの鳥越の自然が豊かだからじゃないかなと思います。

でも、その自然が今はだんだんこわれてきています。地球温暖化によって、北極の氷がとけて、白くまがアザラシをつかまえられなかったり、カメがプラスチックごみを食べたりすることが増えています。このことは、私たちにも何か問題があるんじゃないかなと思います。なので、一人一人が自然を大切にするという思いをもって生活していくことが大事です。

私たちが一度でこのようなことを解決するこ

とはできません。でも、少しずつならできます。ゴミを見つけたらひろったり、電気を使わない時は消したりすることで、自然やいろいろな生き物が住める環境を作っていくことができると思います。

これから、自然保護につながる活動をして、鳥越の自然を守っていきたいです。

「みどりとともに」

松任みどりの少年団連合会
東明小学校 2年

ぼくが今、この作文を書いているえんぴつには「白山市の木でつくりました」と書かれています。毎日べんきょうでつかっているえんぴつが木からできていることを知りました。みどりがなかったら、えんぴつもノートも作れないし、さんそもきたなくなるからみどりは大切だと思います。ぼくがすきな虫たちもみどりがなかったらくらせなくなります。

人間やほかの生きもののためにもみどりを大切にしていきたいと思います。1年生の時にあさがおをそだててみて、たいへんだと思いました。あさがおがたいへんなら森をそだてるのはもっとたいへんだと思います。みどりをまもるために、ぼくにもできることをしていきたいと思います。えんぴつのしんをおってあそばない・えんぴつのむだづかいをしないなど、お母さんにおこられたことを思い出しました。これからは大切につかっていこうと思います。もうすぐ1年生になる妹にもみどりの大切さをおしえて、いっしょにまもっていききたいと思います。

「みどりのぼきん」

松任みどりの少年団連合会
北陽小学校 3年

初めてみどりのぼきんにさんかして、ぼくは最初にみどりのぼきんの意味を知りました。みどりのぼきんは、ぼきんをしてくれた人のお

金を使って地球にたくさんの木や森をつくることをもくひょうにしていると聞きました。地球のためにがんばろうと思い、ショッピングセンターの入り口に同じちょうないの友だちと立ちました。

「みどりのぼきんよろしくおねがいます。」とおっきな声でいろんな人に聞こえるように何度も何度も言いました。そうすると、おじいちゃんや、おばあちゃん、おじちゃんやおばちゃん、おにいちゃんやお姉ちゃん、ぼくと同じくらいの子供や、小っちゃい子供たくさんの人が、ぼきん箱にお金を入れてくれました。たくさんの人が、ぼくたちの持っている箱に、ひとりひとりに少しずつお金を入れてくれてぼくたちはみんなニコニコになりました。

そして、ぼきんをしてくれた人に、みどりの羽根をわたしてまたおっきな声で「ありがとうございました」とみんなで言いました。

ぼくは、すごくうれしい気持ちになってワクワクしながら続けました。

みどりのぼきんにさんかすると決めた時は、なにをするかわからなかったからドキドキしたけど、地球に木や森を増やす、みどりのぼきんにさんかして、地球にみどりを植えることの大切さがわかってよかったです。

これからは、みどりのぼきんの大切さをもっともだちに伝えていきたいです。

そして、今度はぼくがみどりのぼきん箱におこづかいを入れたいです。

「楽しかったジオパーク遠足」

松任みどりの少年団連合会
旭丘小学校 5年

8月4日、夏休みにジオパークバス遠足に参加しました。

昨年ユネスコ世界ジオパークに認定された『白山手取川ジオパーク』を国際連携専門員のメイ・スーザンさんにガイドしてもらいながらめぐりました。バスの中でジオパークに関する色々なお話を聞きながら、目的地まで移動しま

した。

リュウくんがお出迎えしてくれた白山恐竜パークでは、化石のはっくつ体験をして植物の化石のお土産をもらいました。植物も化石になっている事におどろきました。たくさん恐竜が描かれたブラックライトのトンネルも、動く展示もありました。全部初めての体験ばかりで楽しかったです。

白山ろく民族資料館では、行事や食事など様々な生活の様子を知ることができました。その土地の動物たちの展示がとてもリアルでかわいかったです。

旧杉原家の囲炉裏のあるところで、ジオパークにちなんだ食材を使ったジオ弁当を食べました。すごくごうかなお弁当で、特にお豆腐のカツとたっぷり栗が入った栗ご飯が美味しかったです。

その後は、落差が約32mある綿ヶ滝に行きました。階段をおりて近くで滝を見ると、すごくはくりょくがあつてきれいでした。

とても暑い日で途中で雨が降ってきたりしたけれど、最後までジオパークのみりょくを楽しめたバス遠足になり、参加できて良かったと思いました。

「ぼ金活動に参加して」

松任みどりの少年団連合会
蕪城小学校 4年

私は、4年生の春にぼ金活動をしました。仲の良いお友達とみんなでしました。みんなで楽しく活動できるように、その日の洋服におそろいのアイテムをつけて行くことにしました。

最初はどんな風にぼ金活動していいのかわかりませんでした。声もどんな風に言ったらよいのかわからなかったので、モジモジしていました。ぼ金活動って大変だなと思いました。けれど、何人かの人が「がんばってね」と言ってお金を入れてくれました。とても嬉しかったです。それから、みんなで声をそろえて「みどりのぼ金、お願いします！」ということができま

した。おそろいのアイテムもついていたので勇気ができました。声も大きく出せるようになったら楽しくなってきた、楽しくなってきたら、お金を入れてくれる人がふえてきました。こんなにもたくさんの人が協力してくれるんだと思って、とても嬉しくなりました。活動が終わって、ぼ金のお金を数えたら、思った以上にたくさん集まっていました。私たち以外にもぼ金活動をしているグループがいたので、みんな合わせるととってもたくさんのお金になりました。今回は集まったお金は自然のために使われると教えてもらいました。自然のお手伝いをしたんだなと思っただけでも嬉しくなりました。

私は、これまでぼ金活動をしている人を見ても特別何も思わなかったけれど、今回経験できて大変さや最後の喜びのことがわかりました。ほかにもたくさんのぼ金活動があると思います。その種類やどんなことに使われているのかまた調べてみたいと思いました。

「お金が表す心」

松任みどりの少年団連合会
松陽小学校 6年

最初、「みどりのぼ金に行ってきた」とお母さんに言われた時、「遊びたいな」「ちょっとめんどくさいな」と思ってしまいました。みんな無視してぼ金なんて大して集まらないのではとも思った。

実際、活動をしている時は足がつかれたし、のどもかれたし、大変だったけれど、無視したのはほんの一部で、ほとんどの人が、こちらに来て、お金を少しでも入れてくれた。わざわざさいふを取りに行ったりする人もいた。人の行き来が少ないと思っていた出入口でのぼ金も、意外にも沢山入ったし、もっともらった所もあった。

ぼくがぼ金活動をしていた時、もらっていたのは、お金だけでなく、人のあたたかさだと感じた。おじいちゃんやおばあちゃん、若い人。こっちへ来て、お金を入れてくれるたび、心が

ほっこりする。あたたかさを、お金という形あるもので受け取ったとぼくは感じた。そして、そのお金が、あたたかさが、少しずつ積み重なって、みどりを、地球を少しずつ守っていく。この活動が、いろんな所で行われて、また積み重なって、沢山のみどりが守られ、地球の人達の笑顔が、少しでも長く続き、少しでも増えるように。

そして、地球温暖化が大きな問題となっている今、それを食い止め、それで苦しんでいる人を助けられるように、全員があたたかい心を持って少しずつお金を出し合い、積み重ねることが、とても大切だと思った。自分が経験したみどりのぼ金でも、それ以外のことでも、ただ見ているだけではなく、それぞれの人の、少しずつのあたたかさが世界をつつみこむ日が、近いうち、来てくれることを心から願っている。今回の経験は、とても良い経験でした。

「花のコンクールてんにさんかして」

松任みどりの少年団連合会
石川小学校 4年

わたしはみどりのしょうねんだんとして花のコンクールてんにさんかしました。

プランターにつちをいれるところからはじめました。いろんなしゅるいの花のたねからわたしは、せんにちこうをえらびました。この花をえらんだりゆうは、丸くて、いろあざやかでドライフラワーにするとかわいいと思ったからです。がっこうの勉強でおそわったようにたねをうえました。たねをうえてからはまいにちいつ芽がでるのかとまちどおしくていちにちになんどもかくにんしました。はじめて芽がでたときはうれしくてとびあがりました。いとおしままで、かんじました。それからのせいちょうをみとどけました。

そこからはじゅんちょうにそだっていきましたが、風や雨がふり、芽がしんぱいになりました。そしてきゅうにせいちょうが大きくなりそこからやっと花がさき、そのときは大よろこび

しました。そして、そだててよかったなと思いました。また、プライベートでもきせつにあった花をうえて楽しもうと思います。

お花にはそだてる楽しみ、みるたのしみがあると分かりました。かわいくていやされます。コンクールてんのあとは、ドライフラワーにして楽しみました。

「ジオパーク遠足に行った事」

松任みどりの少年団連合会
松南小学校 6年

8月に白山ジオパークへバス遠足に行き、とても楽しい日を友達といっしょに過ごせました。夏の暑い中白山の自然に囲まれて、さまざまな自然や歴史を学びました。ガイドさんの説明はとてもわかりやすく、ていねいでした。

特に印象に残ったのは、恐竜パークです。みんなと暑い日ざしの下で、化石を発くつし、妹も自分も発見する事が出来ました。記念に持ち帰る事が出来たので、今でも家にかざってあります。また、リアルな恐竜や、キャラクターがとても印象的でした。

最後に行った滝は、前にも行った事があり、雨がふってきたのと、かいだんが大変だったので残念な気持ちになりました。

みんなと自然や歴史を学べて、とても良い経験が出来ました。

(4) 金沢ブロック

「緑の少年団の活動」

内川緑の少年団
内川小学校 6年

学校で緑の少年団の活動をした。今年も森林再生課の人に来てもらって3～6年生で貯金箱を作った。

去年はたなや踏み台を学校用で作ったけど今年は6年生も個人の物を作れて嬉しかった。同じグループの3年生は初めてにもかかわらず、しっかり自分で考えて楽しく作っていて、素敵だなーと思った。

植物は人と違って二酸化炭素を吸って酸素を吐くことがわかった。放置された森林の木を切って、太陽の光を入れて森林を管理することがわかった。森林再生課の人が、3年生や4年生も理解できるように説明していたのがすごくいいなーと思った。

「緑の少年団の活動」

内川緑の少年団
内川小学校 6年

学校で緑の少年団の活動をしました。木を使った貯金箱を作りました。最初は3枚の板を釘で打ちました。そこまでは順調に進んでいたけれど4枚目の板を釘でつけるときははみ出たり木が割れてしまったり板が内側に斜めっていて手で抑えながら釘を打ちました。投入口も釘が折れたり斜めにずれたりして大変でした。木箱は完成し、絵を塗るときは書きづらくあまり上手くは書けませんでした。みんな協力できて良かったです。

「頑張って作った貯金箱」

内川緑の少年団
内川小学校 6年

私は、はじめて木で貯金箱を3、4、5、6年生で作りました。

最初に、木に鉛筆でくぎを打つところに線などをかいてしるしをつけました。しるしをつけるのも大変なところもありましたが、くぎを打つのがとくに大変で難しかったです。くぎを打つことが久しぶりだったし、くぎを打つことも苦手だったので、すぐに曲がってしまう時が多くあってまっすぐ打てなかったからです。でも何回もくぎを打ってくぎをぬいて森林再生課の方に教えてもらううちに、時々曲がってしまうことがあったけど最初よりもきれいにまっすぐに打てるようになりました。そして説明書を読むとき私は説明書を読むのが苦手です。少しは読んで理解してできることもありますが、間違っただけでさうになることもありました。誰かに聞かれたときも答えることができませんでした。だからこれから少しずつ説明書を読んで理解できるようにして、こういうときに説明書を読んで誰かに聞かれたときも答えられるようになりたいと思います。

これから、自分が苦手だと思うことでも努力してできるようになりたいと思います。そして今回森林のことや、木で何かを作ることなどを経験できたのでまたこんな機会があったらこの経験を活かしていきたいと思いました。

「団長としての緑の祭典」

内川緑の少年団
内川小学校 6年

ぼくが思い出に残った緑の少年団の活動は、緑の祭典だ。去年も参加していてそれなりに楽しかったので今年も楽しみにしていた。しかし今年の内川が自分たちの学校について発表する年だった。みんな本番に向けてたくさん練習し

た。緑の祭典の当日、ぼくは少し緊張しながらも団長としてゆっくり、はっきり、大きな声で発表できた、と思う。誰もミスしていなかったと思うので良かった。これはみんなにはわからない団長ならではの喜びだ。その後はジュースを買って、みんなで野原で遊んだ。あまりこういう機会がないので、楽しかった。特に後半にぼくが始めた段ボールをそりにして少し急なところを滑るのがよかった。「先生にあと5分で帰るよ」と言われたときは、もっと早くこの遊びに気づいていればよかったと思った。それはあとから真似し一緒にやっていたみんなも同じ気持ちだろう。

今年は去年より人数が増えたので楽しかった。他の参加者にも少しは内川の良さが伝えられたかな？多分伝わったよね。伝えられているといいな。あんなに発表頑張ったしな。と少し考えていた帰り道だった・・・

(5) 河北ブロック

「みどりの少年団での学び」

笠野みどりの少年団
笠野小学校 6年

僕は、みどりの少年団の活動で「美化大作戦」に参加しました。「美化大作戦」では、地域ごとに分かれて、落ちているゴミを燃えるゴミと燃えないゴミに分別しました。そして、自然の大切さを学びました。参加していると、色々なゴミが落ちているなど思いました。僕は七黒地区を掃除しました。七黒地区でもっとも多かったゴミは、タバコやビニールで僕はなぜゴミを捨てて街を汚くするのかなと不思議に思いました。なぜなら、道路や川、森林に捨ててしまうと、自然がこわされてしまうからです。だから、捨ててあるタバコを全部拾えるように意識しました。すると、よりきれいになったので良かったです。家族や友達、地域の人たちにも、自然の大切さやゴミ拾いを呼びかけることも大切だと思いました。これからはみんなにも呼びかけていきたいです。

「美化大作戦」の他にも、みどりの募金の呼びかけにも、参加しました。学校のマラソン大会が終わったあと、応援に来てくださった保護者の方々に、「みどりの募金をお願いします。」と言って募金を呼びかけました。思っていたよりもたくさん集まったので、嬉しかったです。

僕はみどりの少年団の活動で、ゴミを拾い続けることの大切さを学びました。だから、これからもゴミを見つけたら自分から拾って、自分の周りの環境をきれいにしていきたいです。

「みどりの少年団で気づいたこと」

笠野みどりの少年団
笠野小学校 6年

私は、みどりの少年団の活動で「美化大作戦」

に参加しました。「美化大作戦」では、早起きをして、地域ごとに分かれてゴミを拾い「燃えるゴミ」「燃えないゴミ」に分別しました。他に、草むしりや、花植えもしました。一番大変だと感じるのは、ゴミ拾いです。ゴミ拾いでは、煙草の吸いがらや、紐、ガラス、手袋、お菓子の袋、プラスチック、空き缶、ペットボトルなどが落ちていました。「なぜこんなに、みんなはポイ捨てができるのかな」と不思議に思いました。なぜなら、「SDGs」が、ポスターやテレビを通して呼びかけられているし、自然が壊れてしまうからです。

私が、みどりの少年団の活動で、一番やりがいを感じているのは、トンネル前や、笠野公園の花植えです。なぜなら、トンネル前の花植えでは、トンネルを通る人たちが、幸せな気持ちになることができると思ったからです。笠野公園の「花植え」では、笠野公園に来る人や、笠野公園の前の自販機に来る人や前を通る人たちが、幸せな気持ちになってくれると思ったからです。「大変だなあ」と思っても、きれいな街、地域を見て、みんなが幸せな気持ちになってくれるという事を考えたら、頑張ることができそうです。

私は、「美化大作戦」を通して、みんなが気持ちよく暮らせる街や、環境がいい街になってほしいと思います。地域みんなのためにみどりの少年団の活動を頑張っていきたいと思います。

「みどりの少年団で学んだこと」

笠野みどりの少年団
笠野小学校 6年

ぼくは、みどりの少年団の活動のゴミ拾いや、花植え、草むしりなどに参加しました。

ゴミ拾いでは、朝早くから起きて自分の校区のゴミを拾いました。そこでは、タバコや、タバコの箱、ペットボトル、空き缶などがありました。自分は、なぜこのようにポイ捨てをするのかなと思いました。なぜなら、タバコに火が

ついたままだったら、火事にもなるし、ペットボトルも人にあたったら危険だからです。そして、上級生たちに教わったので、今までできなかったゴミの分別が、できるようになりました。自分たちも下級生にもゴミの分別を教えて覚えてくれたら嬉しいです。そして、自分たちがゴミ拾いをしなくても、きれいな校区になってほしいです。

花植えでは、花壇に花を植えました。下級生と、上級生で、植える場所が違うので、上級生の植えるところにいったときは、「上級生になったんだなあ」と思いました。これから、5年生より下の学年は、自分たちよりきれいに、花を植えてほしいです。

草むしりでは、大人が草刈り機で刈った草を集めたりしました。それは大変だったけどできたら飲み物をもらえて、それで、達成感を感じられたのでこれからもボランティアとしてやりたいです。

「みどりの少年団での頑張り」

笠野みどりの少年団
笠野小学校 6年

私は、朝早くに起きて草むしりやゴミ拾いをしました。正直、「大変だなあ」と思っていました。しかし、これらの活動を通してみどりの少年団の活動に参加する大切さを知ることができました。

「美化大作戦」では普段気づかないところまで探すのは大変でした。特に、タバコやペットボトルのラベルなどがたくさん落ちていました。私がチームで探していたところは、タバコやラベルだけでなく、大きい袋や、ペットボトル、空き缶、お菓子の袋などが落ちていました。燃えないゴミと、燃えるゴミに分別しました。「ポイ捨て禁止」という張り紙が貼ってあってもまだ、ポイ捨てなどをする人などがある、ということがわかりました。笠野地区に住んでいるみんなが、環境に気を使えるようになってほしいと思います。

笠野公園の「花植え」では、「どんなお花になるのかな？」などを思って植えていました。植える前には、雑草をぬく作業がありました。疲れるけど、「みんなが過ごしやすくなるように」と思って、頑張っていました。笠野公園に遊びに行くと「このお花きれいだねー」と言っている子がいました。「あまりやりたくないなあ」と思っていたけど、やっぱりやりがいがあるなと思いました。トンネル前の花植えでは、トンネルを通る人が、幸せな気持ちになるようにという思いで、植えていました。

学校のマラソン大会が終わったら、お友達が募金活動をしました。募金活動も大事だなと思いました。私も、募金をしました。

みどりの少年団の活動だけでなく、日常生活の中でもゴミが落ちていたら、積極的にゴミを拾うようにしたいです。みどりの少年団の活動をしていたら、楽しくなりました。日頃からゴミを拾っていたら、「大変だなあ」という気持ちがなくなるから、続けていきたいです。みどりの少年団の活動は、これからも地域の人たちのために、みどりの少年団の活動を頑張っていきたいです。

「緑の少年団」

大海みどりの少年団
大海小学校 6年

ぼくは、今年度緑の少年団の団長に立候補しました。活動の内容はみんなと同じだけど、大海小学校の緑の少年団団長としての自覚をもって活動をすることができました。

緑の少年団として、特に印象に残っているのは、学校林整備作業と植樹です。整備作業では、学校林の中に設置されている階段を直す作業をしました。重い丸太をもって階段を上るのは大変でしたが、大海小学校の先ばいたちが今まで大切にお世話してきた学校林を守るために、ぼくも一生懸命活動に取り組みました。作業が終わった後のきれいになった階段を見て、がんばったかいたがあったなと思いました。

植樹の活動では、ぼくたちが手作りで作ったプランターで苗から育てた幼木を植えました。固い土を深くほり、育てた幼木をしっかりとうめました。そして、大雨が降ってもたおれたりしないように、まわりの土をしっかりと固めました。まわりには先ばいたちが植えた木が大きく育っているのが見え、ぼくたちが植えた木もそのように大きく育ててほしいなと思いました。

緑の少年団の団長として活動するのは不安が多かったけれど、大海小学校の先ばいたちが大切に守ってきた学校林を守る活動に参加できたことは、とてもうれしかったです。これからも地域のみinnで学校林のことを大切にしていけたらいいなと思います。

「緑の少年団」

大海みどりの少年団
大海小学校 6年

ぼくは、緑の少年団の活動を通して、緑への考え方が前とは少し変わったような気がしました。

学校林での植樹の活動では、ぼくたちが作ったプランターで育てた木を植えました。プランターの中に植えてある小さくて枝のような木を見ると、林の木に歴史を感じました。ぼくたちと同じように大切に育てた木が、長い時間をかけて大きく成長したのだと思うと、自然の力はすごいなと思いました。また、木の階段の整備に行くとき、ボロボロになっているものがたくさんあり、丸太を使ってしっかりと直しました。植樹だけでなく、整備作業もしっかりと行うことができました。

次に、緑の募金活動です。募金活動は、地域にあるグランドゴルフ場で行いました。募金活動に協力してもらえると声をかけると、そこにいたたくさんの人たちが寄付をしてくれて、緑はたくさんの方が大切だと思っているということを知りました。自然を守りたいという気持ちをもっと多くの方がもってくれればうれしいです。

最後に、緑の祭典への参加です。そこに参加

することによって、緑の少年団の活動をしているのはぼくたちだけではないのだということを知りました。緑を守るための活動をしている人がたくさんいるおかげで、今の緑が守られているのだと考えました。

ぼくは、緑は自然に生まれているもので、守る必要はないと考えていたけれど、緑の少年団の活動を通して、緑を守る大切さを知りました。これからも、緑が無くならないように自然を大切に、守る活動へ積極的に参加したいなと思いました。

「自然を守るための活動」

大海みどりの少年団
大海小学校 6年

私は緑の少年団の活動で、学校林で植樹をしたことや募金活動をしたこと、緑の祭典に参加したことが心に残っています。

植樹したことが心に残っている理由は、みんなと協力しながら木を植え、緑を増やす活動ができたからです。プランター作りから始めてとても大変だったけれど、よい経験ができたと思います。同じ日に行った整備作業では、植樹をするために草むしりをしたり階段を直したりしました。急な階段を行ったり来たりするのは大変だったけれど、最後までがんばることができました。私たちが植えた木が、大きく育ってくれるとうれしいです。

募金活動では、地域のグランドゴルフ場で、緑の少年団の制服を着て募金を呼びかける活動をしました。実際に募金をしてくれたときは、とてもうれしかったです。みんなが笑顔で募金してくれる姿がとても心に残りました。

緑の祭典では、他の学校の方が緑を守るためにどんな活動をしているのかを発表している姿を見て、すごいなと思いました。私たちがもっとがんばろうという気持ちになりました。

授業の中で、緑が無くなってしまうと、生き物が暮らせなくなってしまったり、空気がよごれてしまったりすることを学びました。これか

らも、募金活動や自然を守るための活動に、積極的に協力したいと思います。

「自然のありがたさ」

金津緑の少年団
金津小学校 6年

ぼくは、みどりの祭典に行くと木がたくさん育っていることに気づきました。木を大切に育てていることに気づきました。他の小学校の発表を聞いて、自然のよさを知り、自然はいろんな場面で生かされていることを知りました。コースターやキーホルダー作りを体験して、自然の大切さやありがたさを感じました。森林伐採などの環境問題になるのはやめてほしいなと思いました。

ぼくの学校には金津の森があります。鳥や森の植物のことを、6年間金津の森プロジェクトで学びます。炭作り体験をしてみて、炭を作るには火を燃やし続けなければならず、そのために木の配置や新聞や段ボールの置くタイミングなども気をつけないといけないのでとても大変でした。できあがった炭は、水分がぬけてとても軽かったです。

ぼくは、みどりの祭典や金津の森プロジェクトを通して、自然の大切さが分かりました。

「自然の大切さを知った炭作り」

金津緑の少年団
金津小学校 6年

炭作りで使った木は、自然からできていることがよく分かりありがたさを感じました。木は家だけでなく家具にも使われて便利ですが、環境破壊によって木が少なくなっているのです。これからも自然に感謝したいです。炭作りは、熱くて大変だったけど班のみんなと協力してまきを入れたり、うちわで風を送ったりできたので良かったです。

できた炭は軽くて小さかったのでびっくりし

たけど、またやってみたいなと思いました。

私は、自然を守るために必要以上に二酸化炭素を出さないように気をつけたいです。

「新しい学び」

金津緑の少年団
金津小学校 6年

あまりやったことのない炭作り。そのまま火をつけても炭にならずに灰になってしまう。でも空気の入り口をなくして密閉させると炭になる。火はずっと燃やし続けられないから、うちわでパタパタとあおぎ続けた。パチパチと火から音がしてとても心地よかった。最初はあまり火が大きくなりすぎたけど、後で大きくなって安心しました。次の日になって鍋の中を見てみると、中に入れた物が真っ黒になっていた。少し光ってつるつるな物があれば、ざらざらな物もあった。

みどりの祭典は、木を使った遊びがあった。アーチェリーでは、的に当たると鉛筆が2本もらえた。他にもフリスビーやキーホルダー作り、ジェンガなどたくさんあった。鍋などの屋台もあった。私はアイスを食べました。いつも食べるアイスよりもなんだかおいしく感じました。

前までは興味がなかった森について少し知りたくなった自分がいます。何かをすることによってだんだん森の魅力に気付いていくことが分かりました。このようなイベントでみんなと仲良くなって絆も強くなったと思うし、父が設計した保護施設も見ることができたし、楽しかったです。また機会があれば行って見て、みんなと前よりも楽しみたいです。

「最後の緑の少年団」

金津緑の少年団
金津小学校 6年

緑の少年団では、みどりの祭典に参加したり、炭作り体験をしたりしました。

みどりの祭典ではものづくり体験や木で作った遊ぶものがありました。絵のコンクールの表彰や金沢の小学校の発表がありました。ものづくり体験では、木のキーホルダーやコースターを作りました。積み積み対決は今年も参加しました。アーチェリーや竹馬もしました。新しいメンバーでみどりの祭典に行ったけど、楽しく参加できてよかったです。

炭作り体験では、金津小学校に地域の人たちや炭作りの先生が来て、グループに分かれて炭を作りました。炭にしたい物を入れて、火が燃え続けるようにしました。炭を作るには時間がかかるので地域の人たちに手伝ってもらいました。昼休みに地域の人たちが焼いてくれたウインナーやトウモロコシ、サツマイモを食べてとてもおいしかったです。グループの人たちと仲よく体験できたし、自然とふれあえたと感じたのでよかったです。

「自然が大切だと感じる事ができた みどりの祭典」

金津緑の少年団
金津小学校 6年

ぼくは、みどりの祭典に行って他の学校の人とも仲良くなれたし、みんなと物を作ったりして、もちろん楽しかったけど、でもやっぱり自然の大切さを一番感じる事ができました。丸太を他の学校の人たちと運んで積み重ねる対決をして仲を深める事ができたし、木をさわってみて木の性質や重さなどを感じることができました。他にも金津小学校のみんなとキーホルダーを作って、とても楽しかったし、フリスビーでアーチェリーやボーリングをして、小さい子の手伝いなどもすることができてよかったです。このようなことで自然の大切さを肌で感じる事ができて、とても楽しかったです。みんなと一緒に木の下で食べるアイスは格別においしかったし、ジュースもいつもと違うおいしさを感じました。このような機会はなかなかないので、とてもいい思い出になりました。

この体験をこれからの生活に活かしていくために、なるべくゴミを捨てないようにしたり、ゴミを見つけたら、拾ったりしていきたいです。初めはめんどくさい気持ちもあったけど、どんどん楽しくてこの祭典に行ってもよかったと思いました。

「自然にふれた私の手」

金津緑の少年団
金津小学校 6年

私が自然にふれた体験で心に残ったことは、三つあります。

一つ目は、5・6年生でした炭作り体験です。みんなで協力して作ることができたし、木や葉、きのこなどの豊かな自然があるからこそできる炭をたくさん作ったからです。

二つ目は、みどりの祭典です。この行事はたくさんさんの学校の人たちが森林公園に集まり、式典やいろいろなコーナーを通して、楽しみながら自然に触れることができ、とてもいい体験になりました。木のおいや重さ、感触など知らず知らずのうちに自然について学んでいたかと思うと少しうれしい気持ちになりました。

三つ目は、宿泊体験学習です。自然の中で、5・6年生で支え合って、絆と協力が深まったことです。登山では、長い長い山道を「がんばれ！」とみんなで声をかけあって歩いたり、バーベキューでは、みんなで机を囲んで楽しく食べたりしました。

これらの体験は、すべて自然があるからこそできる体験だなと思いました。この経験をこれからの学校生活に活かしたいなと思いました。

「思い出に残った炭作り」

金津緑の少年団
金津小学校 6年

私は、5年生の時の炭作りでは、一番火が付くのが遅かったけど、今年は早くついてよかつ

たです。炭を作ってみて、いろんな物が炭になることが分かりました。キノコも炭になってすごいと思いました。火をつけたり、まきを入れたりするのも角度を調節しないといけないし、すき間を開けておかないといけないことも難しかったです。バーベキューで使う炭も作るのが難しいのかなと思いました。5年生は初めて炭作りをしていたけど、楽しそうでした。

最後の炭作りは思い出に残る楽しい炭作りになりました。

「自然のすごさが分かった体験」

金津緑の少年団
金津小学校 6年

ぼくは、この体験を通して、ポーリング、的当て、イラストなど木を利用した物がたくさんあって、太さや高さが様々で手触りや色も違った木もたくさんあって面白かったし、勉強になりました。また、苗木が配られていて、苗木を育てることで大きな木になり、木で作られた物で遊ぶことができると思ったし、木が育つことでさらに苗木を増やすことができると思うので良い循環になると思いました。

木や草などの植物も命があることや、家や学校でも使われているので感謝していきたいと思いました。二酸化炭素で地球温暖化の影響が出ているけれど、植物は二酸化炭素を酸素に代えてくれて環境を守ってくれるので大切にしたいと思いました。

「自然のありがたさ」

金津緑の少年団
金津小学校 6年

私は、金津の森プロジェクトで炭作り体験をしました。改めて炭の大切さやありがたさを知ることができました。炭は木だけでなく、木の実や食べ物でも作れます。私はカニの甲羅が心に残っています。炭にならないと

でしたが、作り終わった後に見るとちゃんと炭になっていてびっくりしました、かたい甲羅などでも炭になることが分かりました。炭作りは5、6年生でします。協力しながら作ることができて、仲を深めることができました。また、炭作りをしながら作っている人や自然にも感謝したいと思いました。5年生の時の感想は、「楽しかった」や「おどろいた」などでしたが、6年生になって「自然に感謝したい」気持ちが出てきました。

私はみどりの祭典には行けませんでした。初めは、「行けなくてもよかったかな」と思っていたけど、みんなの話を聞いてみどりの祭典に行きたかったと思いました。なぜなら、木が使われている物やいろんな体験をして自然の大切さが知れたと言っていたからです。機会があれば行ってみたいと思いました。

私は自然を守るために、森や公園などでのゴミ拾いや持ち帰り、分別、リサイクルを心掛けたいです。

「自然を大切に」

金津緑の少年団
金津小学校 6年

みどりの祭典や炭作り体験を通して、より自然の大切さがわかりました。みどりの祭典では、木を利用した遊びがとても楽しかったし、木はこんなことにも使えるんだと思いました。木で作ったキーホルダーや的当てもありました。みどりの祭典はすべて木を使っているのですごいなと思いました。今の時代は、電子機器やインターネットゲームばかりです。しかし、木で遊んでみるととても楽しかったし、処分されてしまう木があるのならもっと誰でも楽しめるようなおもちゃを作ってもいいなと思いました。

炭作り体験では、木を燃やした物と炭の違いにびっくりしました。重さや匂い、さわり心地など全部が違いました。実際に炭を作るのはとても難しかったです。空気を入れてはいけないことや火を弱めてはいけないことが大変でし

た。少しの炭を作るのに何時間もかかるけど、時間をかけただけの成果があったなと思いました。鍋に入れる前は食べられる果実だったのに炭にした物は黒く、軽くなっていることにびっくりしました。

このみどりの祭典や炭作り体験で自然の大切さが今まで以上にわかりました。金津小学校のそばには金津の森があります。今まで金津の森を守ってきたけど、金津の森だけでなくいろいろな自然も守っていきなさいと思いました。

「自然を感じたみどりの祭典」

金津緑の少年団
金津小学校 6年

ぼくは、初めてみどりの祭典に行き、木の積み重ねりレーをやったり、弓矢で的を当てたり、丸太でボーリングをしたり、いろいろなことをしました。どれも自然を感じることができました。他にもいろいろな人が来てくださっている自然の大切さなどを学ぶことができてよかったです。また行く機会があったら行きたいなと思いました。

金津の森プロジェクトで炭作りをやって、2回目だけど改めて、もう1回しっかりと話を聞いて炭のでき方を知ることができてよかったです。炭は、酸素をなくして二酸化炭素だけにしたまま燃やし続けるとできます。いろいろな物の炭を作りました。炭を作っている時は、うちわであおいだり、燃えやすいものを拾ってきたりいろいろなことをしました。チームみんなで協力して、炭を作ることができました。バナナやリンゴ、レンコン、栗などいろいろな炭を作ることができました。途中で爆発してふたが飛んだと聞いてとてもびっくりしました。怖いけど少し見てみたかったとも思いました。

ぼくは、この2つの活動を通して、身近に自然を感じることができてよかったです。

— 金津の森プロジェクト —



低学年「森となかよし」～金津の森たんけん～



中学年「森はすごい」～伐採見学～



高学年「森と生きる」～炭作り～



金津の森チップまき

(6) 羽咋ブロック

「『リユールシロフォン』を作って」

宝達緑の少年団
宝達小学校 4年

緑の少年団の活動で、4～6年生が「リユールシロフォン」を作りました。「リユールシロフォン」は、木を材料にした円の形をした木きんです。

「リユールシロフォン」を作る前に先生の話聞いて、木が二さん化たんそをすってくれると知りました。二さん化たんそが地球上にどんどんふえて、地球の気温がどんどん高くなっています。地球温だん化のもとになっている二さん化たんそをすってくれるなんて、木にはすごい役わりがあるんだなと思いました。そして、古い木より新しい木の方がたくさん二さん化たんそをすうので、古い木をずっとそのままにするのではなく、切って使い、新しい木をたくさん植えて育てれば地球温だん化が少し少なくなると分かりました。だから、わたしは家にある古い木を切って、それを利用したらいいんじゃないかなと思いました。

また、木は二さん化たんそをすってくれるだけではなく、音色もとてもきれいだと思います。木の台の周りに、うすい木の板をならべてはって、中にビー玉を入れてころがすといろいろな音がします。温かくてとてもいい音色だなと思いました。木のならび順をかえると自分だけの「リユールシロフォン」が作れます。友達の音を聞いてみると、自分とちがう音がして、それもいいなと思いました。わたしは、学校だけでなく家でも「リユールシロフォン」を作ってみたいと思ったし、木の材料を使ったものを他にも作ってみたいと思いました。

宝達小学校の周りには、木がたくさんあり、近くには宝達山があります。宝達山にも新しい木を植えて育てることができればいいと思います。



「宝達山のブナの木を守る」

宝達緑の少年団
宝達小学校 5年

皆さんは、ブナという木を知っていますか。僕達は、総合的な学習の時間で、宝達志水町の自然や特産物などについて調べました。僕は、その中でも宝達山に生育する植物について興味をもったので調べることにしました。宝達山は自分達のすぐ近くにある山ですが、調査活動をするまで、ブナの木のことや、宝達山にブナの木が生育していることを知りませんでした。

ブナの木について調べてみたら、土の質の良いところだけに生える落葉樹ということが分かりました。また、宝達志水町を代表する木だそうです。落葉樹は一年以内に必ず葉が落ちたり、紅葉をしたりする特徴があるため、季節を楽しむことができます。また、落ち葉が積み重なってできた土は「腐葉土」といって、栄養分の多い土になり、その栄養分がまた植物や虫などの生き物の成長に役立っていくことにつながります。そして、落葉樹の最大の特徴は根が横に広がっていくことです。根が横に広がることにより、大雨が降っても地すべりなどの土砂災害が起きにくくなります。他にも宝達山には、コブシ、クヌギ、コナラなどたくさんの種類の落葉樹があります。このことから宝達山は、落葉樹のおかげで土の質が良く、災害からも守られていると分かりました。

僕達、宝達小学校5年生は、野々市市立館野小学校と、お互いの町について紹介し合う交流をしました。僕は、宝達山のブナの木について紹介しました。館野小学校の皆さんも、ブナの木について知らないと言っていました。ブナの木は周りにあまり知られていない植物なので、いろいろな人に広めていきたいと思いました。また、僕達の身近な所に生育していて、自然にとって大切な宝達志水町の木を守っていきたいです。



「宝達山の植物について ～落葉樹の役割～」

宝達緑の少年団
宝達小学校 5年

僕達の宝達小学校の近くに宝達山があります。宝達山には、ブナ、コブシ、クヌギ、コナラ、ミズナラ、イヌシデ、オイクルミなど、多くの種類の木があり、これらは落葉樹といいます。宝達山の植物は、落葉樹が多いです。落葉樹は、その名の通り、葉っぱが落ちる木です。落葉樹の特徴の一つとして、葉っぱの色が違うことがあります。落葉樹には、葉っぱの色が赤くなるものと黄色くなるものがあります。なぜかという、落葉樹が生えているところの土の成分が葉っぱの色に関係しているからです。「カ

ロチノイド」という成分が多いと黄色い葉っぱになり、「アントシアニン」という成分が多いと葉っぱが赤くなるそうです。土の成分によって葉っぱの色にちがいがあをることを知り、おどろきました。

また、落葉樹には他にも良い性質があります。それは、根が横に広がるということです。根が横に広がると、地すべりなどの災害が起こりにくくなります。だから、宝達山は災害に強いと言われています。宝達山の豊かな自然が、自分たちを守ってくれていることも知ることができました。さらに、落葉樹は、針葉樹に比べて二酸化炭素を吸収する量が多いそうです。落葉樹の木を植えて育てることが、SDGsにもつながるので、落葉樹を増やしていけるといいと思います。

宝達山は、アサギマダラという渡りのチョウの中継地点にもなっています。宝達小学校では、アサギマダラの生態を調べるために、毎年、宝達山山頂付近でマーキング活動を実施してきました。アサギマダラを見つけると、羽に見つけた人の名前や日にちを書き、また放します。そして、そのマーキングされたアサギマダラが別の場所で発見されると、何日間かけて、どのルートで飛んでいったのかが分かります。自然が多いからこそ、アサギマダラの中継地点になるのだと思います。

このように、宝達山の自然について調べてみると、宝達山の良さが分かりました。宝達山のことについてまだまだ調べてみたいと思います。



「動物も人間も 楽しく生きていける世界へ」

宝達緑の少年団
宝達小学校 6年

僕たちは、「宝達緑の少年団」として4月29日（月）「みどりの祭典」に参加した。最初は休みの日だし、「面白いのかな。」と思ったけど、行ってみるとにぎやかで空気が美味しかった。さらに、自然のものを使った遊びなど、いろいろなものがあったり楽しそうだった。また、自分で計算して食べ物を買うから頭も使う。自然とも触れ合えるし、頭も使うからすごいなと感じた。特に心に残っているのは、無料の鍋を食べたことだ。能登半島地震で悲しい怖い気持ちだったけど、被災者全員が協力して無料で鍋を配ってボランティア活動していて、やっぱり石川県はいい人がたくさんいると感動した。その他にも、弓矢体験をして自然に触れ合った。その景品も石川県の木を使った鉛筆や木を使ったしおりなどだったので、自然を感じられた。また、みんなで仲を深めながらご飯を食べたり遊んだりしてどんどん楽しくなった。しかも、自然に囲まれているから、鳥の声や木の揺れる音が聞こえてきたりして気持ちよかった。みんなでご飯を食べた丘の上からは、石川森林公園全体が見渡せるから景色もとてもいいし、登れたときの達成感がとても良かった。「みどりの祭典」は、学校や家では感じられないことができている面白い行事だった。

その他にも、宝達小学校で続けてきた「緑の少年団」として「リユールシロフォン」という木を使った楽器を作った。みんなそれぞれ違う音が流れ、しかも自然の木を使っていて木のいい匂いがし、木の温かみも感じられた。

僕たち宝達っ子は、昔から自然と触れ合ってきて自然の大事さを感じている。でも、最近は森林を伐採したりしている。しかも、それをしているのが人間だということが僕は許せなくなった。だから、自然を守るために自然の楽しさや大切さを日本人に知ってもらって、緑

のある日本にしていきたい。また、動物、人間が楽しく生きていけるような世界にしていきたい。

「すばらしい自然を残していきたい」

宝達緑の少年団
宝達小学校 6年

4月29日、私達6年生は「宝達緑の少年団」として、「みどりの祭典」に参加した。祝日にクラスで遠出するのを私は楽しみにしていた。バスに乗って、「石川県森林公園 緑化の広場」に着くと、みんなで結構急な坂を登った。行ってから帰るまで何回も上り下りしたのが、すごく大変だった。でも、自分たちでお昼を買ってきて、坂を登って疲れた後に食べるのは、すごく美味しかった。

式典の後、お昼まで各自でいろいろな体験をした。弓で的を狙う的当てゲームや、はんだで絵を木の板に焼き付けるウッドバーニング体験などがあり、自分の興味のあるものから回った。私はウッドバーニング体験が一番心に残っている。木の板に、カーボン紙でキャラクターを写し、それをはんだでなぞるだけで絵が映し出されるのが面白いと思った。作ったものの内一つは、一人暮らしを始める姉へのお土産にした。「鍋敷きにに使わせてもらう！」と喜んでいた。もう一つ体験したのが、木製の弓矢で的を狙う的当てゲームだ。最初は、あまりうまくいかなかったが、アドバイスをもらってコツをつかめるようになることができようになった。

お昼、美味しそうな匂いが漂ってくる。自分の財布を持って行くと、美味しそうな焼きそばなどが売っていた。一つ買って、自然に囲まれながら食べると、なんだか優しいような落ち着く感じがした。そしてみんなで食べると尚更美味しかった。

今年で宝達小学校は閉校してしまうから、こんな体験ができるのは今年限りかもしれないと、卒業までの思い出がまた一つ増えた気がした。自然とふれあい、仲間と一緒に楽しんだ「み

どりの祭典」。近年、地球温暖化の影響もあり、自然が減ってきている。最近では「地球沸騰化」と言われ始めた。私は「緑の少年団」として、自然を大切にしていきたいと思った。そのために自然のために自分たちができていることを考えてみようと思う。

「自然の大切さ」

西北台緑の少年団
西北台小学校 6年

私は6年生になってから、4月に緑の祭典へ行ったり、9月に緑の募金を行ったりしました。4月の緑の祭典では、緑に触れ合いながら遊んだり、木に絵を描いてキーホルダーを作ったり、桜貝や貝殻など自然のものをプラスチックの中に入れて自然にあるものを使って工作をしました。9月の授業参観の日には、保護者の方に募金の協力をお願いしました。下級生もたくさん募金してくれました。人数が少ない学校ですが、たくさんの人が募金してくれたのでうれしかったです。

緑の祭典を通して私が考えたことは、自然と触れ合いながら遊ぶことで自然の大切さが分かるということです。さらに、健康で楽しく遊べるということです。これからも自然を大切にしながら、私たちの身近にある自然と遊ぶことは楽しいということを伝えていきたいと思いました。

緑の募金では、大人の方はなぜ募金をするか分かって募金してくださいましたが、下級生は緑の羽根が欲しくて募金をしているように見えました。だから、これから募金活動があったら、なぜ募金をするのかをしっかりと理解してもらえるように説明してから募金活動をしていきたいです。自然を大切に、未来へつなげていきたいという思いをみんなに伝えたいと思いました。

緑の祭典や募金活動を通して、自分がどうして自然を大切にしないといけないか、どうやって自然を大切にするかを考えるきっかけになりました。どういうところが自然の良いところか自然を大切にすることでどんな良いことが生ま

れるか、みんなにどうやって伝えるか、を考えてこれからにつなげていきたいと思いました。そしてとにかく自分が知っている、自然に良いことを実践していきたいです。例えば、ポイ捨てはしない、洗剤などをたくさん使いすぎない、紙は大切に使うなど簡単なことから始めていきたいなと思いました。私の力で少しでも未来の自然が良くなればいいなと思います。そのために、生活の過ごし方を見直して、工夫していきたいと思っています。

「緑の少年団の活動して」

西北台緑の少年団
西北台小学校 6年

私は緑の祭典や緑の募金活動について、最初は「楽しそうだな」くらいにしか思っていませんでした。でも、緑の祭典に初めて参加をして、私が想像していたことと全然違っていました。実際には、自然に囲まれた素敵な場所で開きされることの素晴らしさを実感しました。緑が多くてとてもワクワクしました。また、緑の募金活動をしてみて、募金をしてくださる人たちに「頑張っていて偉いね」などと言われてもっと頑張ろうと思いました。また、たくさんの人が募金に協力してくれたので、こんなにも緑を守ろうと思ってくれる人がいるんだとうれしくなりました。

緑の祭典でみどりの素晴らしさや大切さを実感しました。「緑を愛し、緑を守り、緑を育て、明るい社会をつくる」という目的で緑の少年団があるということを知りました。こんなにも自然に触れるという機会はあまりありませんでした。私の家の回りには木がたくさんあります。私は、自然と触れ合っていると思っていたけど、緑の祭典を通して、自然でここまでできるのだと感心しました。自然を守ることによって持続可能な社会や美しい環境を作ることができると分かりました。

今、自然がどんどん少なくなっています。もっと自然を身近なものに感じていくともっと良い

社会になると思いました。

私は、緑の少年団の活動をして、自然の大切さや自然で遊んだり工作をしたりして楽しく活動できるのだと新しい発見をすることができました。これからは、自然を守っていくために、3Rや「これは本当に必要な」と考えたり、地産地消を心がけたりしていきたいです。他にも、ご飯は残さないように食べたいなど思いました。私は、もっと自然の大切さを知り、自然に関わるようなことをしていき、緑を愛し、緑を守り、緑を育て明るい社会を作っていきたいなど思いました。

「緑の少年団の活動」

西北台緑の少年団
西北台小学校 6年

私は、緑の少年団で、二つの活動をしました。一つは「緑の祭典」の参加で、二つ目は、学校での「緑の募金活動」です。

まず緑の祭典では、自然の大切さが分かりました。私達は自然があるから生きていくことができます。最初私は、「緑の少年団は、めんどくさいな。」とっていました。でも、緑の祭典で木を使って、キーホルダーを作ったり、的あてゲームなどをしたりして、「自然があるから、こうやって今遊ぶことができるんだ」と思いました。人間は、酸素を取り入れて二酸化炭素を出して生きています。植物が日光に当たって二酸化炭素を取り入れて酸素を出してくれるので、私達は生きることができます。だから自然がなくなることで人間や動物は生きていけません。少しでも自然を守りたいなど思いました。

次に私は、緑の募金活動をしました。緑の祭典のときに思った、「自然を守りたい」という思いをもちながら、募金活動に取り組みました。皆さんたくさん募金をしてくださいました。私も募金をしました。募金をするとき「自分はいいことをしたんだな」や「募金したことで、みんなの思いが、自然を守っていつているんだ」と感動しました。皆さんが募金してくださっ

たとき、うれしい気持ちとありがたい気持ちでいっぱいでした。自然を守っていけるのは、自分だけではできません。この世界に生きている人たちと協力しないとできないことなのではないかなと思いました。

私は、緑の少年団に入っています。いつも私達は緑を使って生きてると言っても過言ではありません。だから、今できることはしたいと思うし、来年の6年生に引き継いでもらって緑の少年団を引っ張っていつてほしいなど思っています。これから私は、自然を大切にしたいです。そのために私は、募金などをしてこの地球を少しでも支えられたらなど思っています。生きていることに感謝しながらこれからの生活を送っていききたいなど思っています。

「緑の少年団での活動」

西北台緑の少年団
西北台小学校 6年

私たちの小学校では、自然を守るために二つの活動を行いました。一つ目は石川県森林公園で「緑の祭典」に参加したことです。もう一つは校内で「緑の募金活動」をしたことです。

緑の祭典では、森林公園に石川県内の小学生が集まり、自然のことを学びながら、木でキーホルダーを作ったり、木でつくったゲームなどで遊んだりしました。はじめは、「緑の祭典とは何なの？」など疑問がいっぱいでした。だけどこの緑の祭典を通して、国民一人一人が緑の大切さを知り、緑を守り、豊かな暮らしがある街作りを進めるということが分かりました。緑の祭典で一番心に残っていることがあります。それは、緑の自然に囲まれながらお母さんが作ってくれたお弁当を食べたことです。自然を見ながら、食べるお弁当はとても美味しかったです。5年生のときから緑の祭典に行きたかったので、とても楽しい思い出です。

緑の募金活動では、はじめは羽咋市の道の駅やあだちの店頭で募金をする予定でした。しかし、元日に能登半島地震があったので、「被災

された方たちに募金活動をするのはちがうのかな」となり、私達の学校の玄関の前に立って募金活動を行いました。6年生が「緑の募金にご協力よろしくお願いします」と声をかけました。その日は授業参観でたくさんの方が協力してくれました。下級生にも呼びかけると、たくさん募金してくれました。募金してくれた人には、緑の羽根を渡しました。募金の合計はなんと10,133円になりました。先生から合計を聞いた時、とってもびっくりしました。この緑の募金を通して集められたお金は、緑の保全に使われることが分かりました。

これからも自然を大切に、緑を守っていきたいです。今年は二つしかできなかつたけど、日頃から、電気や水を大切にしたり、ゴミを分別したりしていきたいです。

「緑の少年団で活動して」

西北台緑の少年団
西北台小学校 6年

ぼくは、緑の少年団の団長になりました。緑の祭典には行ってないけど、緑の募金活動に参加することができました。

6年生みんなで玄関の前に出て、家の人や下級生に緑の募金の協力をお願いしました。「緑の募金にご協力お願いします。」と大きな声で言いました。そしたら多くの方が百円、十円を募金してくれてとてもうれしくなりました。校長先生は、千円出してくれました。募金額は、合計で一万円ぐらいでした。そのお金は自然の保護のために使われるそうです。

緑の少年団になって緑について考えたことは、自然は大切だということです。緑・自然を大切にしないと動物も生きていけないので、人間は自分のことばかり考えるのではなく、動物や植物のためにも自然を大切にしたいと思っています。だから、ぼくにもできる募金をしたいと思いました。他にも、ポイ捨てもしないようにしたいです。そして緑を大切にしたいです。

募金活動を通して、募金活動は大切だということを感じました。募金をすると自然を少しでも改善できるので、募金は大切だと思いました。また、募金活動でみんなに呼びかけることで、自分達だけでなく、周りの人たちにも緑の大切さを伝えることができると思いました。

去年は、能登半島地震や豪雨などの自然災害が多くありました。いつかまた自然災害が起きるか分からないけれど、今回のことで、自然の恐ろしさも感じました。今のぼくは、地震や大雨などの自然災害が怖いものだと思っています。でも、ぼくは自然に囲まれて生活することが大好きです。そんな大好きな緑をこれからも大切にしていきたいです。

ぼくの家の中には多くの緑があります。緑と触れ合うととても気持ちがよくなります。その緑をずっと残していくことが大切だと緑の少年団で活動して思いました。そのために、一人一人ができることをしていきたいです。

(7) 輪島・穴水ブロック

「緑の少年団の植樹体験」

門前東緑の少年団
門前東小学校・門前西小学校 5年

僕は緑の少年団の植樹体験をして初めて知ったことがあります。まず、元は葉っぱだったものに色々な工夫をして根っこを付けて植えるということが分かりました。それにアテの木の葉っぱの裏の白いところに日光が当たると枯れてしまうと知りました。急な斜面のところでも、スキー場のジャンプ台のようにして植えたら、真っすぐ伸びると分かりました。

行く前に、「植樹体験に海女さんが来たこともある」と聞いて、「なんでだろう」と思ったけど、理由を聞いて「そうなんだ」と思いました。山の栄養素が雨が降って川に流れて海に行くとプランクトンの栄養になり、海が豊かになるからだと知りました。

植樹体験をしてとても楽しかったです。こんなに楽しくて石川県の自然を豊かにするためのことを地震や大雨で被害が大きかったのに僕達にやらせてくれてとても嬉しかったです。この活動を通して、僕はお父さんみたいに林業の仕事をしてこれからも石川県の自然をまもりたいです。



「植樹体験」

門前東緑の少年団
門前東小学校・門前西小学校 5年

緑の少年団のアテの木の植樹体験をしました。アテの木は場所によっていろいろな呼び方をされるそうです。能登では「能登ヒバ」と呼ばれていて、「あすなろ」と呼ばれているところもあるそうです。アテの木が成長するまでは50年から80年かかるとわかりました。耐久性が強いとわかりました。輪島塗の木地や建築にも使われているそうです。植物は、人間と同じで息をするとわかりました。白い部分は太陽(日光)に弱いとわかりました。なので、白い部分を地面に向けないといけないとわかりました。

アテの木は他の根を取り除いたり、「1回踏んで土をかける」を3回繰り返したりして植えます。アテの木を1本植えるのにそれほど手間がかかるとわかりました。植える場所はとても急な傾斜で滑りそうでした。今年は、100本を約35人で植えました。時間的に一人1、2本ほどしか植えることができませんでした。この体験を通して木を植える活動があったら参加したいと思いました。



「植樹体験」

門前東緑の少年団
門前東小学校・門前西小学校 5年

私は、緑の少年団でアテの木の植樹体験をしました。アテの木を植えるところは雨で濡れていたため足が滑りそうになりました。アテの木は、白っぽいところが、下になるように植えました。白っぽいところを上にするとう強い日光を浴びて枯れてしまうからです。山に木を植えると、山から出た栄養が海に流れるから海にも栄養が行き、魚がたくさん取れるとわかりました。アテをうえるのは、一人二本ずつでした。白っぽいところを下にして枕をつくって、土をかぶせて植えました。アテの木を植えるのは、大変でした。アテの木が枯れないように計算して山を切ったとわかりました。アテの木はほかの木より育つのが遅いから、私の植えたアテの木が大きくなるのが楽しみです。アテの木を植えるのは、たいへんだっただけで楽しかったです。

アテの木を植え終わったら飾り物を作りに行きました。私は、アテの木とあじさいと、花粉がでないセイタカアワダチソウと、赤い実をつけました。リボンは、ピンクみたいな色のうるしのひもをつけました。家に飾るのが楽しみです。

緑の少年団の活動を通して、木を植える人はすごい大変だと気づきました。



「植樹体験」

門前東緑の少年団
門前東小学校・門前西小学校 5年

緑の少年団の植樹は、アテの木は白っぽいところは日が強く当たるとかかれてしまうので、表とうらをちゃんとかくにんして植えなければいけないところがむずかしかったです。そして、少しだけ急なしゃ面がすべりそうでした。なえは2本植えました。もっと植えたかったです。しゃ面をのぼるほど高くて楽しかったです。

木を植えると山の栄養が豊かになり、川に流れこんで海に行くと魚がたくさんとれるそうです。ぼくもそのお手伝いをできてうれしかったです。

最後はリース作りをしました。リースにたくさん花や実や葉のかざりをつけました。緑の少年団で学べたことをどこかでいかしたいと思いました。





「初めての植樹体験」

門前東緑の少年団
門前東小学校・門前西小学校 6年

今日は、アテの木植樹体験とスワッグ作りをしました。植樹体験では、ボランティアの方々がアテの木の植え方を教えてくれました。アテの木は、白い葉の方を日光に直接当てないため、裏にするといいということを初めて知りました。植えるときのコツを知ることができたので今後同じような体験ができるときにこのことを活かしていきたいです。

スワッグ作りでは、アテの木の葉や色々な花を使って作りました。また、スワッグを作りたいです。次は、家族に作ってプレゼントしたいです。また機会があれば、植樹体験もスワッグ作りもやりたいです。貴重な体験ができて良かったです。



「楽しかった植樹体験」

門前東緑の少年団
門前東小学校・門前西小学校 6年

私が植樹体験で楽しかったことは2つあります。

1つ目はアテの木を植えるときです。初めてだったけど、説明を聞いて、表が日光に当たるように植えました。2人ペアで作業をして3本植えることができました。少し難しかったけど上手く植えられたと思います。

2つ目はスワッグ作りです。苗植えをした後、小屋に入って作りました。アテの葉と飾りの花やりボンを使いました。私はアテの葉にあじさいと赤い花、ツルツルした葉っぱで作って母にプレゼントしました。いろいろな種類があってきれいだなと思いました。



「思い出に残る植樹体験・スワッグ作り」

門前東緑の少年団
門前東小学校・門前西小学校 6年

今日は、アテの木植樹体験・スワッグ作りをしました。私が特に印象に残ったことは2つあります。1つ目は、アテの木植樹体験です。理由はアテの木植樹体験は初めてでとまどうこともたくさんあったけれども、ボランティアの方々が教えてくださり、上手に植えることができたからです。2つ目はスワッグ作りです。理由は、あまり時間がなかったけどスワッグ作り

でも担当の方がていねいに教えてくださったおかげで上手く作ることができてよかったからです。どちらも初めての体験で難しかったけど、すごく良い経験にすることができてよかったです。



(8) 珠洲ブロック

「野菜を育てていいこといっぱい」

若山緑の少年団
若山小学校 5年

ぼくが野菜を育てて思ったことは四つあります。一つ目は大きく育っていくのが分かるとうれしいということです。芽が出て、本葉が出て、ぐんぐん伸びていくのが分かるのととてもうれしくなるし、育てるのもやる気が出ます。

二つ目は種をまくときに出てくるかどうかドキドキするし、出てきたらとてもうれしいということです。ぼく達は芽が出てくるかどうかむずかしい野菜も育てました。でも、芽が出てきてとてもうれしかったのでもっとお世話をがんばろうとはりきりました。

三つ目は、しゅうかくするときにワクワクするということです。ぼく達が育てた野菜をしゅうかくできるという達成感と、この野菜で何を作れるかなと考える気持ちでとてもワクワクします。最後に、採れた野菜をみんなで調理して食べたのが楽しかったです。学校にいたひんなんの人にも野菜をおすすめしました。喜んでもらえてうれしかったです。

今年もたくさんの野菜をそだてられたし、とても楽しかったです。来年はもっと種類を増やしていろいろな野菜を育ててみたいです。

「責任をもって」

若山緑の少年団
若山小学校 5年

私の学校では、スイカ、バターナッツかぼちゃ、きゅうり、さつまいも、ポップコーンの5種類の野菜を育てました。育てたスイカを使って全校でスイカわり大会をして、その他の野菜は調理をしましたが、それでもまだ食べきれないくらいたくさん残っていました。そのと

きSDGsの学習をしていて、「つくる責任つかう責任」について調べ、毎日お茶わん一ぱい分の食べ物が捨てられていると知りビックリしました。私たちもたくさん野菜を育てたけど、もしも捨てることになってしまったらすごくもったいないと思いました。

だから、食べられる分だけお茶わんにもるように、野菜も食べられる分だけ作ることが大切だと思います。これから責任をもって、捨てる物が少なくなるようにしていきたいです。

「花と野菜を育ててみて」

若山緑の少年団
若山小学校 5年

野菜や花を育ててわたしが感じたことは、育てるのが楽しいということです。

わたしはあまり花や野菜を育てたことがなかったし、全体的に大変そうな印象を受けていました。けれど実際に育ててみて、確かにすごく大変だったけど、だんだん楽しくなったし面白くもなっていくように感じました。また、野菜や花のお世話を家の人や地いきの人ともやってその楽しさをみんなに実感してもらいたいという気持ちになりました。

楽しいと分かったから、今度は野菜や花のことをもっとくわしく調べてみたいし、それを伝えて多くの人に関心をもってもらいたいと思いました。

「植物の大切さ」

若山緑の少年団
若山小学校 6年

私は野菜を育てたり、花を植えたりして植物の大切さを知りました。

まず、きゅうり、かぼちゃ、スイカ、さつまいも、ポップコーンを育てました。きゅうりをスティックに、かぼちゃを焼き、スイカをスイカわり大会に、さつまいもを大学いもに、ポッ

プコーンはポップコーンにしておいしく食べました。たまに水やりを忘れるときがあったけど、おいしく育てることができてよかったです。自分たちで育てたからか分からないけど私の苦手なかぼちゃがおいしく感じました。

次に花を植えたときのことです。植えるとき班のみんなや地域の人とも話しながらできてとても楽しかったです。植えた花を並べたとき、花の色があざやかできれいでした。私は花がきれい好きなので植えたりすることができてうれしかったです。これからも、植物とふれあうことができたらいいなと思いました。

「野菜と花のありがたみ」

若山緑の少年団
若山小学校 6年

私は、野菜を料理にして食べたり、花を植えたりしました。

野菜は、バターナッツかぼちゃ、さつまいも、きゅうり、スイカ、ポップコーンなどを育てました。バターナッツかぼちゃは焼いて、ポップコーンはいためて、きゅうりは切って食べました。さつまいもは大学芋にして、スイカはスイカ割り大会に使いました。バターナッツかぼちゃやさつまいもはしゅうかくしたときにくさっているのもありました。少しだけ水やりをわすれていたからなのかなと思いました。何個か食べられたしおいしかったけど、ちゃんと水やりしとけばよかったと思いました。

花は、全校でプランターに苗や球根を植えました。いろんな花がさいて、今はチューリップが咲くのを待っています。どんな色のチューリップが咲くか楽しみです。きれいに咲いてくれるようお世話していきたいです。

野菜や花の大切さが少しでも知れて、よかったです。

「花と野菜を育てて思ったこと」

若山緑の少年団
若山小学校 6年

ぼくはクラスみんなで協力して、野菜や花を育てました。おいしい野菜やサルビアなどの花がさいて、気持ちがいいと感じました。

学校のグラウンドにできた仮設住宅に入っている人たちと花を植えたときは、いつもは話さない人たちと話ができて楽しかったです。野菜は校務員さんに習ってじゃがいもやかぼちゃやスイカを作りました。

野菜の多くはクッキングに使い、スイカは全校でスイカ割り大会をするのに使いました。スイカ割り大会を全校でやるのは初めてだったので、とてもたのしかったです。どれもおいしく作ることができて、作ったかいがあったなあと思いました。今はチューリップを学校に植えてあるので、さくのが楽しみです。



「思いがこもった植物」

若山緑の少年団
若山小学校 6年

私はクラスみんなでポップコーン、バターナッツかぼちゃ、さつまいも、きゅうりを育てました。その日によって水やりをする当番をかえてみんなでお世話をしました。野菜が実るとクラスのだれかが知らせてくれてみんなでしゅうかくします。野菜を育てるときに草がいっぱ

い生えていると校務員さんが草をていねいにかけてくれています。

全校では花を育てています。友達が水やりをわすれていたら、気付いた人がその人の分もしてあげたり、その人に声をかけたりしています。みんなで協力して育てて花の開くのを待っています。もしだれかの花がさいたらその人に「よかったね」の言葉をかけてあげます。だれかの花がさくとうれしそうにほほえむ人もいます。このように協力して育てています。

「学校で育てた野菜」

若山緑の少年団
若山小学校 6年

ぼくらの学校の5、6年生はさつまいも、かぼちゃ、バターナッツかぼちゃ、ポップコーン、きゅうりなどとても多くの野菜が育てられています。こんなに多くのものを食べられるかわからないけど、こつこつ食べてほとんどなくなっています。やっぱりのこさずに食べきることは大事なのでどんどん食べていきたいです。

また、花はハウセンカとチューリップを育てています。ハウセンカはとてもきれいにさいてみつもおいしかったけど、かれてしまいました。チューリップはまださいてないけど、きれいな花が卒業までにさけばいいなと思います。これからは植物を大切にしていきたいです。

「6年間育てて感じたこと」

若山緑の少年団
若山小学校 6年

ぼくは今まで、たくさんの野菜や花を学校で育ててきました。これまではトマト、アサガオ、マリーゴールド、スイカなどを学年別で育ててきました。今年もいろいろな野菜を育て、秋になるとポップコーン用のトウモロコシやさつまいもをしゅうかくし、自分たちで調理し、さまざまな料理にして食べました。どれもおいしく、

また食べたいと思いました。

この6年間、野菜や花を育ててきて思うことは、こういう活動がこれからも続いてほしいということです。そのためにも、下級生が花や野菜の種を植えるときに知らないことを、上級生がたくさん教えてあげるといいなと思います。そうすれば全校のみんなが楽しくなると思ったからです。だから僕たちが卒業して次の1年生が入学してきても、教え合ってやってくれたらうれしいです。



「寄せ植えの感想」

二葉みどりの少年団
上戸小学校 5年

わたしたちは2度寄せ植えをさせていただきました。わけは、1度目に植えたお花が豪雨により、流されてしまったからです。その時はとても悲しかったです。しかし、支援してくださっている方々のおかげで、もう一度寄せ植えをすることができました。

寄せ植えは仮設住宅の方と一緒に行いました。私たちが宣伝のポスターを配り、それを見て来てくださったそうです。寄せ植えを通してお話ができたのでよかったです。

「寄せ植えの感想」

二葉みどりの少年団
上戸小学校 5年

わたしが、寄せ植えで、楽しかったことは2つあります。

1つ目は、土を入れるところです。理由は、ていねいに入れられたからです。ていねいに入れたら気持ちがよかったです。1回目の寄せ植えよりも美しくできたのでとても嬉しかったです、楽しかったです。

2つ目は、土にさす看板作りです。きれいな色をぬって、素敵な看板になりました。これも1回目の時よりも上手にできたのでよかったです。家でも花を植えてみたいと思います。

「寄せ植えの感想」

二葉みどりの少年団
上戸小学校 5年

私は寄せ植えをして仮設の方々と一緒にできたのが嬉しかったです。そして、積極的に仮設の方々とお話することができました。仮設の方々と一緒に花を選んだり、ネームプレートを書いたりできてよかったです。

また、支援してくださっている方々と一緒に花が植えられたのも嬉しかったです。1回目は奥能登豪雨により、流されてしまったけれど、もう一度支援してくださっている方々の方が来てくださってありがたいなと思いました。2回目に植えた花はきれいに咲き続けてほしいです。





1回目 7月の寄せ植えの様子

「寄せ植えの感想」

二葉みどりの少年団
上戸小学校 6年

ぼくが寄せ植えをして感じたことは2つあります。

1つ目は、前に寄せ植えをしたけれど大雨で流されてしまったので、また寄せ植えができてとても嬉しかったことです。

2つ目は、ぼくは昔、花に興味はありませんでした。しかし、支援してくださっている方々との寄せ植えや、昼休みの球根植えを経験し、花を植えるのがとても好きになりました。このおかげで、花に少し興味を持ちました。時間があったら、花のことをもっと調べようと思いました。支援してくださっているみなさん、2回も上戸小学校に来ていただきありがとうございました。

に色々な花を植えられたからです。支援してくださっている方にたくさんほめられました。嬉しかったです。

2つ目は、名前を書く看板を上手に描けたことです。名前に影を入れたり、背景に青空をかいたりしました。これも支援してくださっている方に褒められました。

大雨で流されたけれど、こうしてもう一度花を咲かせることができ、よかったです。本当にありがとうございました。



2回目 11月の寄せ植えの様子

「寄せ植えの感想」

二葉みどりの少年団
上戸小学校 6年

僕は、2回目は参加できなかったけど、1回目の時に楽しかったことが2つあります。

1つ目は、ていねいに花を植えることができたことです。理由は説明書に書いてあるとおり

参 考 资 料

2. 令和7年用国土緑化運動・育樹運動 ポスター原画・標語の審査結果

国土緑化運動の一環として、植樹及び森林・樹木の保護・保育の助長並びに一般国民の緑化思想の高揚を図るため、緑化に関するポスター原画とポスターに使用する標語を募集したところ、本年はポスター72点、標語24点の応募がありました。

本県で審査の結果、次のとおり、“特選”“準特選”及び“入選”を決定しました。

なお、入選作品を全国の中央審査に応募した結果、石川県立工業高等学校 細谷 実希さん(1年)のポスター原画作品、かほく市立宇ノ気中学校 村本 心実さん(3年)の標語作品がそれぞれ全国の入選に選ばれました。

ポスター原画県審査入賞作品

小学校の部

特選

能美市立浜小学校 1年

四藤 日菜

準特選

金沢市立三和小学校 3年

吉田 一翔

金沢市立三和小学校 5年

前田 星凜

能美市立浜小学校 4年

堀田 柗真

入選

能美市立浜小学校 6年

堀田 真有里

能美市立浜小学校 5年

岡田 潤

能美市立浜小学校 4年

河淵 華棕

能美市立浜小学校 4年

川越 小次郎

能美市立浜小学校 4年

小栗 奈那子

七尾市立朝日小学校 5年

岩島 勇吹

中学校の部

特選

金沢市立兼六中学校 2年

古川 桜結菜

準特選

白山市立松任中学校 1年

橋 陽向

能登町立松波中学校 2年

久保田 光咲

白山市立松任中学校 1年

奥村 絹

入選

金沢市立泉中学校 3年

能美 羽琉

白山市立松任中学校 2年

中野 愛海

白山市立松任中学校 1年

長町 恵佳

金沢市立泉中学校 1年

香月 莓果

金沢市立泉中学校 2年

池田 夏芽

津幡町立津幡中学校 1年

田邊 こい

高等学校の部

特選

石川県立工業高等学校 1年

細谷 実希

準特選

石川県立工業高等学校 2年

西田 妃里

石川県立工業高等学校 2年

中島 唯菜

石川県立工業高等学校 1年

牛木 明希菜

入選

石川県立工業高等学校 2年

山崎 佑菜

石川県立金沢辰巳丘高等学校 1年

喜多 絢音

石川県立工業高等学校 2年

出口 紗代

石川県立金沢辰巳丘高等学校 1年

近藤 里美

石川県立工業高等学校 1年

宮川 怜子

石川県立工業高等学校 1年

本多 夏実

標語県審査入賞作品

	標語	氏名	学校名	学年
1	未来へと 守り育てる 希望の芽	高野 愛来	かほく市立宇ノ気中学校	3年
2	育てよう 未来へつなぐ 緑の輪	川原 琉楓	かほく市立宇ノ気中学校	2年
3	ふみだそう 緑育む 新たな一歩	劔地 彩花	かほく市立宇ノ気中学校	3年
4	広げよう この手で育てる 豊かな緑	大谷 音羽	かほく市立宇ノ気中学校	3年
5	育てよう 青々とした 豊かな大地	高橋 咲来	かほく市立宇ノ気中学校	3年
6	育てよう 緑でつなぐ やさしい未来	村本 心実	かほく市立宇ノ気中学校	3年
7	育てよう 美しい未来 自然とともに	寺嶋 優月	かほく市立宇ノ気中学校	2年
8	今できる 緑のための 行動を	松野 萌菜	かほく市立宇ノ気中学校	1年
9	みんなの森 育てて防ぐ 温暖化	渡邊 友里恵	かほく市立宇ノ気中学校	1年
10	未来へと 小さな芽たち 育てよう	山口 未来	かほく市立宇ノ気中学校	2年

特 選

小学校の部



四藤 日菜 (1年)

特 選

中学校の部



古川 桜結菜 (2年)

特 選

高等学校の部



細谷 実希 (1年)

準特選

小学校の部



吉田 一翔 (3年)



前田 星凜 (5年)



堀田 柝真 (4年)

中学校の部



橘 陽向 (1年)



久保田 光咲 (2年)



奥村 絹 (1年)

準特選

高等学校の部



西田 妃里 (2年)



中島 唯菜 (2年)



牛木 明希菜 (1年)

入 選

小学校の部



堀田 真有里 (6年)



岡田 潤 (5年)



河淵 華棕 (4年)



川越 小次郎 (4年)



小栗 奈那子 (4年)



岩島 勇吹 (5年)

入 選

中学校の部



能美 羽琉 (3年)



中野 愛海 (2年)



長町 恵佳 (1年)



香月 莓果 (1年)



池田 夏芽 (2年)



田邊 こい (1年)

入 選

高等学校の部



山崎 佑菜 (2年)



喜多 絢音 (1年)



出口 紗代 (2年)



近藤 里美 (1年)



宮川 怜子 (1年)



本多 夏実 (1年)

6. 石川県緑の少年団連盟規約

(名 称)

第1条 この会は、石川県緑の少年団連盟（以下「連盟」という。）と称する。

(事務所)

第2条 連盟の事務所は、石川県金沢市古府1丁目197番地 公益財団法人石川県緑化推進委員会内
におく。

(目 的)

第3条 連盟は、緑の少年団を育成し、その活動の促進を図り、もって少年団の健全な発展に資する
ことを目的とする。

(事 業)

第4条 連盟は、前条の目的を達成するため、つぎの事業を行う。

- (1) 緑の少年団の育成および指導
- (2) 緑の少年団指導者の養成および研修
- (3) 緑の少年団相互の親善、交流および情報交換
- (4) 緑の少年団関係の諸事業の開催
- (5) その他前条の目的を達成するために必要な事項

(会 員)

第5条 連盟の会員は、次のとおりとする。

(1) 正会員

第1種会員 県内の緑の少年団（以下「緑の少年団」という。）で、連盟に加入申込書を提出し、所定の会費を納入した緑の少年団。

第2種会員 公益財団法人石川県緑化推進委員会等、緑の少年団の育成および活動に参加・協力する団体で、連盟に加入申込書を提出し、所定の会費を納入した団体。

(2) 賛助会員 連盟の活動に賛同する団体、企業、個人で、所定の会費を納入したもの。

(退 会)

第6条 連盟を退会しようとする会員は、理由を付した退会届を会長に提出するものとする。退会の効力は、会長が退会届を受理したことでそれを生ずる。

2 会長が連盟の名誉を傷つけ、または目的に反する行為があったときは、会長はその旨を理事会に諮り、その決議を経て除名することができる。

3 退会または除名された会員は、すでに納入した会費の返還を求めることができない。

(役 員)

第7条 連盟に次の役員を置く。

会 長	1名
副 会 長	2名以内
専務理事	1名
理 事	若干名
監 事	3名以内

(役員を選出)

第8条 役員は総会において選任し、会長、副会長は理事の互選によって決定する。また専務理事は、公益財団法人石川県緑化推進委員会事務局長をあてる。

(役員任期)

第9条 役員任期は2年とする。ただし再任は防げない。

補欠により就任した役員は、前任者の残任期間とする。

- 2 役員は、辞任または任期終了後においても、後任者が就任するまでその職務を行わなければならない。

(役員職務)

第10条 役員職務は、次のとおりである。

- (1) 会長は連盟を代表し連盟の運営を総理する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代理する。
- (3) 専務理事は、会長の命を受け業務を施行する。
- (4) 理事は、規約および総会の議決に基づく業務を執行する。
- (5) 監事は、連盟の会計を監査する。

(名誉会長および顧問)

第11条 連盟に名誉会長を置くことができる。

- 2 名誉会長および顧問は、会長が理事会の同意を得て委嘱する。

(総会)

第12条 総会は、正会員をもって構成し、毎年1回会長がこれを招集する。但し、会長が必要と認めるときは、臨時にこれを開催することができる。

- 2 総会の議長は、会長とする。
- 3 総会の議決は、出席会員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。但し、連盟規約の改廃については、出席会員の3分の2以上の同意を必要とする。

(総会の決議事項)

第13条 次の事項は、総会の承認ならびに議決を経なければならない。

- (1) 事業報告および収支決算
- (2) 事業計画および収支予算
- (3) 規約の改廃
- (4) その他の理事会で必要と認めた事項

(理事会)

第14条 理事会は、必要に応じ会長がこれを招集する。

- 2 理事会は、第12条第3項本文を準用する。
- 3 会長が必要と認めるときは、理事以外の特定の会員などの出席を要請することができる。

(委任)

第15条 やむを得ない理由により、総会に出席できない会員は、あらかじめ通知された事項について、他の会員を代理人として表決を委任することができる。

- 2 理事会についても、前項を準用する。

(ブロック協議会)

第16条 連盟は、地域的な事項を検討・処理するためブロック協議会を設けることができる。

- 2 ブロックは、加賀、小松・能美、石川、金沢、河北、羽咋、七鹿、輪島・穴水、珠洲の9ブロックとする。
- 3 ブロックに幹事1名を置く。

(経 費)

第 17 条 連盟は、会費、助成金、寄付金およびその他の収入をもってこれにあてる。

(会 費)

第 18 条 連盟の会費は、毎年度総会において決定する。

(会計年度)

第 19 条 連盟の会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり翌年の 3 月 31 日までとする。

(事務局)

第 20 条 連盟の事務を処理するため、事務局を置く。

2 職員は、会長が委嘱する。

(その他)

第 21 条 この規約の定めたもののほか、連盟の運営に必要な事項は、理事会に諮って会長が別に定める。

(附 則)

1 本規約は、平成 2 年 4 月 29 日から施行する。

2 本規約は、平成 8 年 4 月 1 日から施行する。(一部改正)

3 本規約は、平成 8 年 12 月 17 日から施行する。(一部改正。平成 9 年 6 月 23 日総会決議)

《参考》

ブロック協議会

ブロック名	少年団数	所 在		連 絡	
		郵便番号	住 所	電 話	FAX
加賀	1団	923-0801	小松市園町ハ108-1	0761-23-1717	0761-24-2502
小松・能美	26団	〃	〃	〃	〃
石川	7団	920-2121	白山市鶴来本町4丁目リ75	076-272-1171	076-273-0659
金沢	1団	920-8214	金沢市直江南2丁目1番地	076-239-1753	076-239-1720
河北	4団	〃	〃	〃	〃
羽咋	2団	926-0852	七尾市小島町二33	0767-52-6600	0767-52-9194
七鹿	2団	〃	〃	〃	〃
輪島・穴水	2団	929-2392	輪島市三井町洲衛10-11-1	0768-26-2329	0768-26-2332
珠洲	3団	〃	〃	〃	〃
計	48団				

令和 7 年 1 月末現在

8. 石川県緑の少年団装備充実助成金交付規程

(目的)

第1 石川県緑の少年団連盟（以下「連盟」という。）は、緑の少年団（以下「団」という。）を育成するため、団の装備充実に必要な助成金を交付するものとする。

(助成対象経費)

第2 助成金の対象となる装備は、第1の目的を達成するため、次の各号に掲げる経費とする。

(1) 団旗及び団印の作製

(2) ユニフォーム類（上衣、ズボン、キュロット、帽子、スカーフ）の購入

(3) その他連盟が適当と認める経費

(助成金)

第3 助成額の上限は、次のとおりとする。

(1) 団旗及び団印の作製

新設の団にあっては、合わせて10万円まで、その他の団にあっては、総額の3分の2又は10万円のいずれか低い額とする。

(2) ユニフォーム類の購入

新設の団にあっては、合わせて25万円まで、その他の団にあっては、総額の3分の2又は25万円のいずれか低い額とする。

(3) その他経費

連盟会長が必要と認めた額とする。

(助成金の申請)

第4 助成を受けようとする団は、「緑の少年団装備充実認定交付申請書」（別記第1号様式）を、別途定める期日までに連盟会長あて提出するものとする。

(審査及び決定)

第5 連盟は、申請書を審査の上、認定決定通知書（別記第2号様式）により助成額を通知するものとする。

(助成金の請求)

第6 団は、装備完了後、助成金請求書（別記第3号様式）を提出するものとする。

2 前項の請求書には、次の書類を添付するものとする。

(1) 購入品等の領収書（日付、領収内容が明記されているものでレシートも可とする。）

(2) 状況写真

(助成金の交付)

第7 連盟は、助成金請求書に基づき、助成額を支払う。ただし、第5の認定決定後に助成額の一部又は全部を概算払いすることができるものとする。

(認定決定の変更等)

第8 団は、第5の認定決定後において助成内容に変更等が生じた場合は、連盟と協議しなければならない。

附 則

この規程は、平成20年11月25日から施行し、平成20年度の助成金から適用する。

(別記第1号様式)

令和 年 月 日

石川県緑の少年団連盟
会 長 殿

申請者
所在地
少年団名
育成委員長

緑の少年団装備充実認定交付申請書

令和 年度において緑の少年団の装備充実を図りたく、下記のとおり助成金の認定交付申請をします。

記

1 目的及び内容

(1) 目 的 令和 年度緑の少年団の装備充実

(2) 内 容

充実したい品名	数量	単価	金 額	備 考
計				

2 資金計画

区 分	金 額	備 考
1 連盟助成金		百円未満切り捨て
2 その他助成金等		
3 自己資金		
計		

(注) 収入として、連盟助成金以外の助成金、補助金がある場合は「その他助成金等」欄に金額を記入の上、備考欄にその内容を記載すること。

(例：〇〇市緑の少年団育成補助金)

3 助成金申請額：金 _____ 円也 (概算払い希望：あり・なし)

(注) この申請書は、必ず農林総合事務所森林部へ提出して下さい。

(別記第2号様式)

石 緑 少 第 号
令和 年 月 日

緑の少年団
育成委員長 殿

石川県緑の少年団連盟
会長 門 村 和 永

緑の少年団装備充実認定決定通知書

令和 年 月 日付で申請のあった令和 年度緑の少年団装備充実費として、下記のとおり助成金の交付を認定したので通知します。

記

1 内 容

充実したい品名	数量	単価	金 額	備 考
計				

2 助成決定額：金 _____ 円也

3 そ の 他：装備完了後、速やかに請求書（別記様式）を提出して下さい。

(別記第3号様式)

令和 年 月 日

石川県緑の少年団連盟
会 長 門 村 和 永 殿

申請者
所在地
少年団名
育成委員長

緑の少年団装備充実助成金請求書

令和 年度において緑の少年団装備充実を実施しましたので、下記のとおり助成金を請求します。

記

1 内 容

品 名 等	数 量	単 価	金 額	備 考
計				

2 請求額	金	円也
内訳 助成決定額		円
受領済み額		円
今回請求額		円
残 額		円

3 振込先

銀 行 名	銀行	支店
口 座 番 号	普通・当座別	
フリガナ 口座名義人		

9. 石川県緑の少年団連盟組織

(1)連 盟（設立平成2年4月29日）

ア 事務局

所 在	〒920-0362 石川県金沢市古府1丁目197番地 公益財団法人石川県緑化推進委員会事務局内
電 話	076 (240) 7075
F A X	076 (240) 7076
電 子 メ ー ル	isikawa.ryokusui@arrow.ocn.ne.jp
ホームページアドレス	http://www.isikawagreen.or.jp

正 会 員	第 1 種	県内緑の少年団	48 団
	第 2 種	育成・活動に参加する	10 団体
	小 計		58 団体
賛 助 会 員		活動に賛同する	14 市町
	計		72 団体

令和7年1月末現在

(3) 石川県緑の少年団連盟 加入申込の様式

令和 年 月 日

加 入 申 込 書

石川県緑の少年団連盟会長 殿

少年団名

育成委員長

この度、緑の少年団を結成し、石川県緑の少年団連盟に加入したいので、石川県緑の少年団連盟規約第5条（1）の規定により加入申込書を提出します。

記

1 少年団名

2 構 成 学校 ・ 地域

(「学校」：学校単位で組織、「地域」：自治会や子供会等の単位で組織)

3 規 約 別紙のとおり

4 そ の 他

(注) この申込書は、必ず所轄の各農林総合事務所森林部経由で提出して下さい

〇〇緑の少年団規約（案）

（名 称）

第1条 この団は、〇〇緑の少年団（以下「少年団」という。）と称し、事務局を□□□□に置く。

（目 的）

第2条 この少年団は、自然に親しみ、緑を守り育てる自主的な活動の促進を図り、子どもたちが地域の人々とのつながりを大切にして、心豊かな人間に育つことに寄与することを目的とする。

（活 動）

第3条 この少年団は、前条の目的を達成するため、次の活動を行う。

- （1）森や緑を守り育てるための実践活動及び奉仕活動
- （2）森や緑を学び親しむための自然学習活動
- （3）森や緑に親しむレクリエーション活動及び交流活動
- （4）その他目的の達成に必要な事項

（団 員）

第4条 この少年団の団員は、〇〇市立〇〇小学校に在籍する児童のうち、第2条の目的に賛同する5年生及び6年生の児童とする。

（少年団役員）

第5条 この少年団に、団員の中から役員として団長1名、副団長2名を置く。

- 2 団長は、この少年団を代表し、団員をとりまとめる。
- 3 副団長は、団長を補佐する。

（育成会）

第6条 この少年団の活動を援助し、団の健全な育成及び運営に資するため、〇〇緑の少年団育成会（以下「育成会」という。）を置く。

- 2 育成会は、団員の父母及び第2条の目的に賛同する個人、団体で組織する。
- 3 育成会に役員として、育成委員長1名、副委員長2名以内、幹事若干名を置く。
- 4 育成委員長は、育成会統括し、育成会を代表する。
- 5 副委員長は育成委員長を補佐し、育成委員長事故あるときは任務を代行する。

- 6 幹事は、役員会の決議に従い、育成委員長、副委員長を補佐する。
- 7 育成会の役員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の場合は、前任者の残任期間とする。

(会 議)

第7条 会議は、総会及び役員会とし、育成委員長が招集する。

- 2 総会は、定時総会として年一回開催するほか、必要がある場合に開催し、次の事項について決議する。
 - (1) 役員を選出
 - (2) 規約の制定及び改廃
 - (3) 事業計画及び収支予算
 - (4) 事業報告及び決算
 - (5) その他重要な事項
- 3 役員会は、必要に応じて開催する。
- 4 会議の決議は、出席者の過半数をもって行う。

(事務局)

第8条 この少年団の事務局は、会務及び会計を担当する。

- 2 事務局に育成委員長の委嘱により事務局長1名を置く。

(事業年度)

第9条 この少年団の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(経 費)

第10条 この少年団の経費は、会費、助成金、補助金、寄付金等をもって充てる。

(服装等)

第11条 この少年団の活動時の服装、装備については、別に定めるところによる。

(その他)

第12条 この規約に定めたもののほか、この少年団の運営に必要な事項は、育成委員長が役員会に諮って別に定める。

(附則)

- 1 本規約は、令和 年 月 日から施行する。

〇〇緑の少年団役員等名簿

(令和 年 月現在)

少年団の部

役職名	氏名	学年	備考
団長			
副団長			
〃			

育成会の部

役職名	氏名	住所	電話番号	備考
育成委員長				
副委員長				
〃				
幹事				
〃				
〃				

事務局(連絡先)

郵便番号 _____

住 所 _____

事務局長 _____

担当者(事務局長不在時) _____

電話番号 _____

FAX番号 _____

E-mail _____



みどりとともに 第35号

発行 令和7年3月
発行者 〒920-0362 金沢市古府1丁目197番地
石川県緑の少年団連盟
TEL 076-240-7075 FAX 076-240-7076
E-mail: isikawa.ryokusui@arrow.ocn.ne.jp
URL: <http://www.isikawagreen.or.jp>
編集責任者 中垣勝徳